第二　禁獄若クハ配流海外所屬ノ地ニ配置ス刑追放ヨリモ重シノ審判但期滿ツレハ政權剝奪ノ禁ヲ解ク

第十條　大權ノ分劃調和（アルモニー）ハ國民ノ權理ヲ保持スル原理ニシテ建國法ヲ以テ國民ニ保證スル所ノ者ヲ實踐スヘキ眞確ノ方法ナリ

第百十三條　凡葡萄牙人ハ王國ノ獨立完全ヲ保チ及內外ノ敵仇ニ抗シテ防禦ヲ爲スカ爲ニ兵役ニ服スルノ義務アリ

第百四十五條　自由各個安寧及所有權ヲ基礎トスル葡萄牙國民ノ政權民權ヲ侵害スヘカラサルヿハ王國建國法ニ因テ之ヲ保固スルヿ左ノ如シ

第一　凡國人ハ法律ニ依ルノ外或ハ强テ之ヲ爲サシメ或ハ强ンヿ之ヲ止メシムル等ノヿアルヘカラス

第二　法律ノ條規ハ其効ヲ既往ニ及ホスヿアルヘカラス

第三　凡國人ハ言辭文書ヲ以テ其思想ヲ交通シ及監査ヲ受ルヿナク思想ヲ印刷頒行スルヿヲ得但思想自由ノ權ヲ受用スルニ因リ犯ス所ノ罪アルトキハ法律ニ定タル時機幷ニ規程ニ循フテ其責ヲ受ヘシ

第四　凡國人ハ國教羅馬正教ヲ尊重シ及行儀ヲ破犯スルヿナケレハ各自信奉スル宗教ノ爲ニ妨害ヲ受ルヿナシ

第五　凡國人ハ王國ニ居住シ或ハ警察法ニ依據シ其財產ヲ合セテ任意ニ王國ヲ退去スルヿヲ得然ルニ此カ爲ニ他人ノ權理ヲ犯スヘカラス債ヲ負フテ本國ヲ逃去スヘカラサル等是ナリ

第六　凡國民ハ其家屋ヲ以テ安身不侵ノ棲處トナス故ニ家主ノ承允ナク若クハ家內ヨリ招キ呼フヿナク又火災水害ヲ防禦スル爲ニ非スシテ夜間人家ニ進入スルヿヲ得ス

第七　何人モ法律ニ掲クル場合ヲ除クノ外之ヲ拿捕スルヿヲ得ス拿捕スル場合ニ於テハ裁判官自ラ署名シタル文牒ヲ以テ拿捕スル理由及劾告者幷ニ證人ノ名氏ヲ被劾者ニ告知スヘシ但裁判官ノ居住ト相隣接スル府邑其他鄰接ノ地ニ於テ拿捕スルトキハ其時ヨリ二十四時内ニ之ヲ告知スヘシ若シ裁判官ノ居住ヨリ遠隔スル地ニ於テ拿捕スルトキハ其距離遠近ニ準シ法律ニ定タル應當ノ期限内ニ之ヲ告知スヘシ

第八　罪アルトキト雖モ本人若シ法律ニ許シタル場合ニ於テ充分ナル保證ヲ供具スレハ之ヲ拘繫スヘカラス亦既ニ拿捕シタル者ヲ收禁スヘカラス又凡六ケ月間ノ禁獄若クハ追放ヨリモ重キ刑ヲ科セサル罪事ニ對シ其犯人ハ保證ヲ供具シテ身體ノ自由ヲ得ヘシ

第九　現行犯罪ヲ除クノ外ハ當該部官ヨリ發出シタル命令書ニ依ルニ非スシテ拿捕スルヿヲ得ス若シ縱マヽニ拿捕スルアレハ之ヲ命令シタル裁判官及之ヲ請求シタル人ヲ法律ニ掲クル刑ニ處スヘシ禁獄ニ關スル條規ハ軍隊ノ紀律幷ニ點檢ノ爲ニ須要ト定メタル軍法ニ推及セス亦正シク刑法ニ依照セスト雖モ裁判所ノ命令ニ從ハサルカ爲カ若クハ定期限マテニ其義務ノ執行ヲ怠リタルカ爲ニ法律ニ因リ拿捕ヲ命スル時機ニモ推及セス

第十　何人モ當該部官ニ由ルノ外既定ノ法律ニ依リ及法律ニ定ムル規定ニ循フモ之ヲ審斷スヘカラス

第十一　司法權ノ不羈ハ保固スヘシ何レノ官廳ト雖モ未決ノ詞訟ヲ奪ヒ甲ノ裁判所ニ於テ准理スル詞訟聽訟ヲ閣置シ若ハ奪フテ乙ノ裁判所ニ委托ス

クハ既ニ終リタル訴訟ヲ再起セシムルヿヲ得ヘカラス

第十二　法律ハ其保護ニ關スル者モ懲罰ニ關スル者モ全國民ニ對シ平等トス又法律ハ各人ノ功績ニ比率シテ褒賞ヲ行フ

第十三　凡國民ハ皆文武官若クハ國事ノ官僚ニ拜スルヲ得但才德ニ因ルノ外ハ異別スル所アルヘカラステ官ニ拜スルニ當閥閲特准等ヲ設ケサルヲ云

第十四　何人モ其所有產ニ比率シテ國家ノ負任ヲ助クルノ責ヲ免ルヘカラス人々其所有產ノ多少ニ準シ租稅ヲ納レテ國用ヲ助ク

第十五　凡已ムヿヲ得スシテ且全ク公益ノ爲ニスル課務ニ涉ラサル特準ハ皆廢止ニ屬ス

第十六　訴件ノ性質ニ因リ法律ニ依據シ其特別ノ裁判官ニ屬スル者ノ外ハ民事若クハ刑事ニ於テ臨時裁判所若クハ特別ノ委員ヲ設クヘカラス

第十七　正直無偏ヲ基本トシテ民法刑法書ヲ編立スヘシ

第十八　自今鞭韃ノ刑拷問烙刑其他總テ人情ニ依ラサル酷刑ヲ廢ス增補律例第十六條ニ云ク法律ニ指定スヘキ國事犯ニ對シ死刑ヲ廢ス

第十九　何レノ刑罰タリトモ犯罪人ノ他ニ及ホスヘカラス刑罰ハ犯者ノ一身ニ止マル是故ニ何レノ場合ニ於テモ財產ノ沒收ヲ言渡スヘカラス及等級ノ親疎ヲ論セス罪者ノ汚辱ヲ其親眷ニ移スヘカラス

第二十　獄舍ハ健全清潔ニシテ且極テ大氣ノ流通ヲ善クスヘシ及犯罪ノ性質ニ準シ囚人ヲ區別スルカ爲ニ獄舍ヲ分劃スヘシ

第二十一　所有ノ權ハ嚴ニ之ヲ保固ス若シ法律上ニ憑證ヲ

ル公利ノ爲ニ政府國民ノ所有ヲ享用スルヿヲ要スルヿヲ要スルトキハ該國民ニ其ノ所有産ノ價直ヲ前給スヘシ但此特例公利ノ爲ニ私有ヲ行フヘキ時機及前給ヲ定ムル條規ハ法律ヲ官沒スルヲ云ヲ以テ之ヲ指定スヘシ

第二十二　國債ハ之ヲ保固ス法律ヲ制シテ還償ノ方法ヲ定ムルヲ云

第二十三　何レノ作勞工業農耕ト雖ヒ行儀ニ戻リ國民ノ安全若クハ健康ヲ傷害スルニ非レハ之ヲ禁制スルヿヲ得ス

第二十四　發明者ハ其發明若クハ發明ヨリ生スル利益ヲ占有スヘシ又法律ハ有期ノ特準ヲ發明者ニ保固シ及發明シタル方法ノ流布國民一般ニ發明ノヿニ由リ發明者ノ被リタル損失ヒユルガリザシオン術ヲ利用スルヲ云ノ償金ヲ之ニ給與スヘシ

第二十五　信書ノ秘密ハ侵スヘカラス驛遞局ハ信書不侵ノ件ニ於テ如何ナル違犯アルヒ嚴ニ其責ニ任ス

第二十六　國家ニ對シ文武ノ勳功アルニ由テ賜與シタル褒賞及法律ニ依準シテ賞典ヲ賜ハルニ由リ得有シタル權理ハ政府之ヲ保固ス妄リニ之ヲ剝奪スヘカラス

第二十七　政府官員ハ其職務服行ニ當リ犯セル奸私及緩慢ノ罪アリテ實ニ其下僚ノ責任スヘカラサルモノニ對シ嚴ニ自ラ其責ニ任ス

第二十八　凡國民ハ書文ヲ具シ訴告請願ヲ立法權及行政權ニ稟スルヿヲ得又建國法ニ背ケル罪ヲ該權ニ告發シ該犯ノ首謀ヲシテ自ラ其責ニ任セシメンヿヲ當該ノ部官ニ請求スルヿヲ得

第二十九　建國法ハ公共施濟貧院病院育嬰局貯金預局等ヲ置キテ諸貧窮ノ徒ヲ救恤スルヿヲ保固ス

第三十　小學ノ教育ハ全國民ニ對シ其費ヲ課セス

第三十一　建國法ハ世傳ノ貴族及其特典(プレロガチブ)ヲ承認ス

第三十二　諸藝文學技術ノ大旨ヲ教授スヘキ中學及大學校ヲ置クヘシ

第三十三　大權ハ次項ニ指定スル時機形勢ヲ除キ建國法及工業權(トロア)自由ニ工業(インストリエル)ヲ營ムノ權ノ保固ヲ閣置スルヿヲ得ヘカラス

第三十四　騷亂若クハ敵國侵入ノ時機ニ際シ國安ノ爲ニ各個ノ自由ヲ保固スル例規ノ幾分ヲ定期間閣置スルヿヲ要スル時ハ立法權ヨリ發布スル特別ノ命令ニ因リ之ヲ行フヿヲ得ヘシ然ルトモ此時國會所謂立法權ハ開會セスシテ國難最モ急ナレハ「已ムヲ得サル措置」トシテ政府假リニ前文ノ處分ヲナスヿヲ得ヘシ但此處分ヲ證明シタル急難方サニ止ムニ及ハヽ速ニ其執行ヲ停ム又何レノ場合ニ於テモ政府ハ自ラ命令シタル拿捕其他ノ豫防策ヲ證明シタル報告書ヲ國會集合ノ後即時ニ之ヲ送付スヘシ及該拿捕其他ノ豫防策ヲ執行スルノ命令ヲ受タル諸部官ハ皆其行フタル奸私ノ責ニ任スヘシ

○荷蘭

第百四十七條　何人ヲ論セス公益ノ故ヲ以テシ及其價直ノ前給アルニ非レハ私有產ヲ沒收スルヿヲ得ス

第百五十條　何人ヲ論セス其志意ニ悖ヒ法律ヲ以テ定タル判司ヨリ阻隔セラルヽヿナシ

第百五十三條　何人ヲ論セス法律ニ由テ其職任アリト定タル權ヲ以テシ及法律ニ指定シタル規程ニ於テスルノ外家主ノ意志ニ違

ヒテ家屋ニ進入スルヿヲ得ス

第百五十四條　駅郵若クハ其他送運ヲ掌ル局合ニ託スル信書ノ祕密ハ侵スヘカラス然ヒ法律ニ由リ定メル場合ニ於テ判司ヨリ特殊ノ免許アルヨハ此限ニアラス

第百五十五條　何レノ罪科アルヨ犯罪者ノ財産ヲ沒收スルヿヲ得ス

第百六十四條　凡國民ハ自由ニ其信スル處ノ法教ヲ奉ス但刑法ヲ犯スヲ制シテ社會及社員ヲ保護スルヿハ此限ニ在ラス

第百六十五條　凡王國ノ各教會ハ同一ニ政府ノ保護ヲ受ク

第百六十六條　各宗派ノ國民ハ皆同一ノ政權民權ヲ享有シ及爵位官職ヲ拜受スルヲ得

第百六十七條　國家ノ平和ヲ保守スル緊要ナル制規ヲ除キ堂屋ノ內裡及圍閉ノ場地ニ於テ法教ヲ公行スルヿヲ得○前文ノ制規ヲ除キ凡現今法律條例ヲ以テ許認セル場地ニ於テハ堂屋及圍閉地ノ外ト雖ヨ法教ヲ行フヿヲ許ス

第百六十八條　現今諸教會及該會僧侶ノ享有スル俸錢恩賜金其他ノ收入ハ該教會ニ於テ之ヲ保護ス○現今ニ至ルマテ國庫ヨリ俸錢ヲ享有セサル僧侶ニ俸錢ヲ給シ俸錢充分ナラサル僧侶ニ不足ノ俸額ヲ增與スルヿヲ得

第百七十條　各教會ハ其管長ト相往來シ及政府ノ中保ナクヨ法教ニ關スル諸訓命ヲ公布スルノ權ヲ有ス但法律上ノ任責ハ此限ニ在ラス

第百七十七條　國民最要義務ノ一ハ王國ノ獨立邦土ノ防禦ヲ固保スルカタメニ戰鬪スルニアリ

第百七十八條　國王ハ緩急ニ應シ歐洲內外ニ於テ使役スルタメ自ラ好ンテ兵籍ニ入リタル內外國人ヨリ編立スル海陸軍ノ充備ヲ看守ス

第百七十九條　國王ト國會ト諧合スルニ非レハ外國兵ヲ王國ノ軍隊ニ備役スルヿヲ得ス

第百八十條　成ルヘク丈ケ自ラ好ンテ兵籍ニ入ル者ヲ以テ民兵ヲ編制シ法律ニ定メタル方法ニ準シテ之ヲ使役ス

（ミリースナシオナル）

第百八十一條　自ラ好ンテ兵籍ニ編入スル者ノ員數不足スル時ハ抽籤ノ法ヲ用ヒテ民兵ノ缺ヲ補フ凡毎歲第一月一日ニ至リ齡二十歲ニ滿ル國民ハ抽籤ス但民兵ニ編入スヘキ壯丁ノ登簿ハ之ヲ前年ニ行フ

第百八十二條　陸軍ニ祇役スル民兵ハ平和ノ時ニ於テハ服役五年ノ後ニ必ス之ヲ解罷ス○戰時若クハ非常ノ時ハ毎歲改制スヘキ法律ヲ以テ民兵ノ役期ヲ延フルヿヲ得ヘシ

第百八十三條　平時ニ於テハ毎歲一回陸軍民兵ヲ徵集シテ操練ニ加ハラシム但其操練ノ時日ハ六週日間ニ過クルヿヲ得ス然ルトキハ國王ハ緊要ト思量スルトキ操練ノ時間ヲ短縮シ又廢止スルヿヲ得○國王ハ法律ニ由リ定タル民兵ノ局部ヲ留テ兵役ニ服セシムルヿヲ得○本年ニ徵募スル兵士ハ初テ操練スルカタメ止テ役スルヿ一年以上ニ及ヲ得ス

第百八十四條　戰時若クハ其他非常ノ時ニ際シ國王ハ陸軍民兵ノ全部又其局部ヲ徵集スルヿヲ得○國王ハ同時ニ國會ヲ召集シ法律ヲ以テ其徵集セル民兵ノ散セサルヿヲ命スルニ備フ

第百八十五條　陸軍ノ民兵ハ其承諾ナク歐洲外ノ王國藩屬地又所

屬地ニ送遣スルヿヲ得ス

第百八十六條　法律ニ因リ定タル方法ニ準シ民兵ノ局部ヲ海軍ニ使役スルヿヲ得○海軍ニ使役スル民兵ノ局部ハ法律ニ因リ許認スル利益ノ外更ニ其役期ヲ短フス○前條ハ海軍ニ準用スヘカラス

第百八十七條　凡國軍ニ係ル費用ハ國庫ニ於テ之ヲ支ユ○兵士ノ屯營保養軍隊若クハ堡寨ニ係ル運送及諸種ノ課役ハ例ニ準シ費ヲ給スルノ外專ラ一人若クハ數人又一邑若クハ數邑ニ其負任ヲ命スルヿヲ得ス○法律ハ戰時ノ場合ニ係ル特例ヲ規定ス

第百八十八條　護鄉兵（ガルドシビヤメ）ハ邑ニ搆制ス○護鄉兵ハ危難戰鬪ノ時ニ於テ國土ヲ防禦シ及戰時和時ヲ論セス國安ヲ保擁ス

第百八十九條　法律ハ國軍及護鄉兵ノ員數ト搆制トヲ規定ス

○丁抹

第五十一條　一ノ法律ノ効ニ由ルニ非レハ外國人ヨリ國民タルノ權利ヲ求ルヿヲ得ス

第七十六條　國民ノ宗教及擧動ハ道德及國ノ安寧ヲ害スルニ非レハ國民其信仰ニ由テ上帝ヲ拜スル爲ニ教會ヲ結フノ權アリ

第七十七條　何人モ己ノ信仰スル宗教ノ爲ニ貨物ヲ寄附スルニ及ス然ルトモ政府ノ認可ヲ得タル教會社中タルヿノ證左ヲ立ルヿ能ハサル者ハ法律ニ於テ定タル國教ノ爲ニ名人ノ寄附スヘキ金額ヲ文部省ニ納ムヘシ

第七十八條　國教ニ非ル教會ハ一ノ格別ナル法律ニ由テ其取締ヲナス

第七十九條　教法原由ノ爲ニ民權及政權ヲ褫フヿヲ得ス且其原由ノ爲ニ國民ノ行フヘキ各種ノ義務ヲ辭スルヿヲ得ス

第八十一條　住居ハ侵スヘカラサル者タリ○住居ヲ檢探シ又書簡文書ヲ勾收シ及其秘密ヲ侵スヿハ法律ニ由テ定タル格別ナル時機ノ外裁判宣告ノ効ノミヲ以テ之ヲ行フヿヲ得

第八十二條　所有物ハ侵スヘカラサル者トス公益ノ故ニ由ルニアラサレハ何人モ其所有物ヲ讓ルニ及ハス公益ノ爲ニ其所有物ヲ讓ルヘキヿハ一ノ法律ノ効力ニ由リ及十分ナル賠償ヲ以テノミ之ヲ行フヿヲ得

第八十三條　公益ノ故ニ由ラスシテ人民工業ノ自由ヲ妨クヘキ一切ノ規定ハ一ノ法律ニ由テ之ヲ廢ス

第八十四條　自ラ生計ヲ立ルヿ能ハス或ハ其家屬ヲ養フヿ能ハス及他人ノ救助ヲ受ルヿ能ハザル者ハ政府ノ施濟ヲ仰クノ權アリ然ルモ政府ノ施濟ヲ仰ク者ハ其法律ニ定タル規則ニ循フ

第八十五條　其子ヲ教育スルヿ能ハサル親ノ兒童ハ小學校ニ於テ無費ノ教育ヲ受クヘシ

第八十六條　各民裁判所ニ對シ責ニ任スヘキ出版ノ法式ヲ以テ自面ノ思想ヲ出版スルノ權ヲ有ス著書監査（サシユル）ノ法及一切ノ制限ハ更ニ設クルヿヲ得ス

第八十七條　凡國民ハ政府ノ前許ヲ得スシテ法律ニ觸レサル目的ヲ以テ會社ヲ結フノ權ヲ有ス何レノ會社ト雖モ行政ノ處分ニ由テ之ヲ解クヿヲ得ス然モ假リニ會社ヲ禁止スルヿヲ得ヘシ此時機ニ於テハ法律ノ力ヲ以テ其禁ヲ解クカ爲ニ急速其事ヲ裁判所ニ告訴スヘシ

第八十八條　凡國民ハ戎器ヲ携フルヿナク集會スルヿヲ得警察官吏ハ其集會ニ臨ムノ權アリ然ルニ露場家屋外ヲ云フノ集會ニ於テ國ノ安寧ヲ害スヘキ憑據アルトキハ之ヲ禁止ス

第八十九條　暴動ノ起リタル場合ニ於テ兵士ハ其襲擊ヲ受ルニ非レハ國王及法律ノ名義ヲ以テ三度散歸ヲ說諭シタル後始テ兵力ヲ用ルヿヲ得

第九十條　兵器ヲ携フルニ適シタル國民ハ防護ノ爲ニ親ラ之ヲ援クヘシ然ルニ此事件ハ法律ニ於テ特別ニ定タル規則ニ循フ

第九十一條　政府ノ監督ヲ受ル所ノ諸邑ニ於テ自ラ其事務ヲ調理スルノ權ハ一ノ法律ニ由テ之ヲ定ム

第九十二條　舊法ニ撮載シタル貴人及尊稱又位階ニ屬スル特權ハ之ヲ廢ス

第九十三條　不動產ニ付キ籍土世襲ノ法財產ヲ嫡子ニノミ傳フルノ法財產相續ノ順序ヲ定ムルノ法ヲ新設スルヿヲ得ス一ノ格別ナル法律ニ於テ現行スル所ノ右財產ヲ自由トナス爲ニ循用スヘキ規則ヲ設クヘシ

第九十四條　第八十條第八十七條第八十八條ニ揭載シタル各種ノ條規ハ軍律ヨリ生スル所ノ制限ヲ以テスルニ非レハ海陸軍ニ用ユルヿヲ得ス

○伊太利

第二十四條　凡國民タル者ハ法律ニ於テ平等トス○凡國民法律ニ定タル特條ノ外均ク政權ヲ受ケ又文武官ニ任スルヿヲ得

第二十五條　凡國民ハ各財產ノ比例ニ從ヒ國費ノ爲ニ租稅ヲ納ル

者トス

第二十六條　國民ノ自由ヲ保護ス○法律ニ揭ケタル時機ニ非ス及法律ニ定タル程規ニ由ルニ非レハ何人モ拿捕セラル、コトナク且裁判所ニ提喚セラル、コトナシ

第二十七條　住居ハ侵スヘカラサル者トス法律ニ示シタル定規ニ由ルニ非ス及法律ニ定タル法式ニ由ラスシテ住居ヲ檢探スルヿヲ得ス

第二十八條　出版ハ自由タリ然ルニ一ノ法律ニ由テ惡弊ヲ防制スルヿヲ得○新舊約書及教法問答禮拜式ノ書籍ハ副督教第二等高僧ノ准許ヲ得ルニ非レハ出版スルヿヲ得ス

第二十九條　凡財産ハ侵スヘカラサル者トス○然ルニ法律ニ揭ケタル公益ノ故ニ由リ法律ニ於テ正當ナル賠償ヲ以テスルトキハ其全部或ハ局部ヲ失フヘシ

第三十條　兩院ノ決定及國王ノ許可ナクシテ租稅ヲ賦スヘカラス

第三十一條　國債ヲ保任ス○政府ト債主トノ契約ヲ侵スヘカラサル者トス

第三十二條　戎器ヲ携フルニ非スシテ平穩ニ集會スルノ權ヲ有ス然ルニ此權ヲ行フハ公益ノ爲ニ定タル法律ニ循フヘシ○此ニ定タル法則ハ公場ノ集會ニ適用スヘカラス公場ノ集會ハ警察規則ニ屬ス

第七十五條　海陸軍兵ノ點徵ハ法律ニ由テ之ヲ行フ

第七十六條　法律ニ定タル條規ニ從テ邑兵ヲ設ク

第八十條　凡國民國王ノ許可ヲ得ルニ非レハ外國ノ賞牌及尊稱或ハ養老銀ヲ受ルヿヲ得ス

○魯西亞

各州露國ヲ分テ五十八州ト爲スニ於テ三百二十八[エクタール]以上ノ土地或ハ一萬三千圓已上ノ價アル家屋ヲ所有スル華族及之ヲ所有セスト雖モ始ノ五等ニ列スル所ノ華族ハ三年毎ニ一度其州ノ首府ニ議院ヲ編制スルノ權アリ他ノ華族ハ各郡ニ於テ集會シ州ノ議院ニ郡ノ名代トシテ出ツヘキ者ヲ撰任スルナリ州ノ議院ハ州ノマレシヤル[華族ノ長]一名及郡[マレシヤル]數名ヲ撰任ス此[マレシヤル]ハ華族ノ利益ニ注意シ政府ニ對シテ華族ノ名代ノ職ヲ勤ムルナリ尙此州ノ議院ニ裁判所ノ裁判役及各郡ノ警視長ヲ撰任シ租稅ノ割賦法ヲ檢査シ及總テ州ノ便益ノ事ヲ決議スルナリ華族ノ取締及其爵名證書ノ監察モ此議院ノ職掌トス又濫費ノ訴ヲ受タル華族ヲ裁判シ場合ニ由テ之ニ管財人[ヲ附スルナリ地方官ノ委任ト雖モ其重ナル者ハ皇帝ノ確定ヲ待ツナリ

府民[ブールシヨワ]ハ六等ニ分ツ即チ左ノ如シ

第一等　不動產ヲ所有スル者

第二等　第一等商社員[ギルド]露國ニ於テ資本ニ因テ商社ヲ三等ニ分ツ

第三等　露國內ニ住居スル外國ノ商人

第四等　豪民[ブールシヨワノダーブル]千八百三十二年已來豪民ノ位ヲ設ケ且之ヲ二等ニ分チ第一等ハ世襲トシ第二等ハ終身ト爲セリ其位ヲ任スルノ權ハ元老院ニ歸ス

第五等　職工

第六等　小商人小職工等

農夫ハ殆ト全國民十分ノ九ニ居ル其住居スル村ハ大抵三萬アリ農夫ハ殘ラス人頭稅ヲ納ム千八百六十一年ノ法律ヲ以テ奴

隷ノ事ヲ廢止シタルトキ元奴隷タリシ者ノ權利及其元主人ノ權利ヲ定タリ

第七　立法權

○佛蘭西　一千七百九十一年

第百十六條　孰レノ布告ノ題言ニモ左ノ件々ヲ記スヘシ

第一　此布告ノ案文ノ三過讀ヲ爲セシ會議ノ月日

第二　之ヲ直ニ一定ニ決スヘキヿヲ陳述シタル民選議院ノ命令

第百十七條　孰レノ布告モ如シ其題言前條ノ法式ニ從ハサレハ國王之ヲ確定スルヿヲ辭スヘシ若シ國王違式ノ布告ヲ確定スト雖ヒ諸鄉之ニ加印シ又ハ布告スヘカラス若シ諸卿之ニ違フトキハ六ケ月ノ間其責ニ任スヘシ

○佛蘭西　一千七百九十三年

第五十六條　孰レノ法律ノ案文ニモ其略意書述タル調書ヲ前加スヘシ

第五十七條　其法律ヲ商議シ且假リニ定ルヿハ前條調書ヲ差出セシヨリ十五日ノ後ナラサレハ之ヲ爲スヘカラス

第五十八條　法律ノ案文ヲ上梓シ共和國ノ各邑ヘ送達スヘシ

但其文ノ表題トシ勸告法律ノ二字ヲ之ニ記スヘシ

第五十九條　法律ノ案文ヲ諸邑ヘ送達セシヨリ四十日ノ後若シ總州ノ過半分各州ニ於テ法律ニ循テ編制シタル下會ノ全數ノ十分一ノ下會異存ヲ述サレハ法律ノ案文ヲ承諾サレタル者トシテ法律トナルヘシ

第六十條　前條ニ記シタル異存之アルトキハ民選議院ハ佛蘭西ノ總テノ下會ヲ召集スヘシ

第六十一條　法律布令裁判言渡書及他ノ公然ノ證書ノ序文トシテ左ノ文式ヲ用ユヘシ但佛蘭西國民ノ名義ヲ以テ共和政治ノ何年ト云ナリ

○佛蘭西一千七百九十九年

第二十五條　法律ヲ新設スルニハ政府ヨリ法律ノ議案ヲ勸告シ其議案ヲ第一等ノ民選議院ヘ達シ且民選議院之ヲ布告セシ後ナラサレハ之ヲ爲ス可カラス

第二十六條　政府ヨリ勸告スル議案ハ條々區別シテ之ヲ記スヘシ其議案ハ已ニ評議スト雖モ未決ノ中ハ政府ニ於テ之ヲ引戻スヲ得ベシ

第二十七條　「トリブナ」ハ二十五歳以上ノ議員百人ヲ以テ編制ス右

ハ毎年議院ノ五部一ヲ改選スルヲ以テ五年目ニ及テ全部變改ニナルナリ議員ハ全國ノ連名書ニ記名セタル間ニ限ナク之ヲ復任スルヲ得ヘシ

第二十八條　第一等ノ民選議院ハ法律ノ議案ヲ評議シ其可否ヲ論ス其後己ノ議員ノ内三人ヲ選ヒ民選議院ヘ之ヲ遣ハシ各議案ニ付テ已ノ希望スルヿヲ同院ヘ陳ヘシメ且已ノ論ヲ防禦セシム○公用ノ職役ニ任スルヲ得ヘキ國民ノ連名書ト民選議院及政府ノ處分ハ建國法ニ背クトキノミ第一等ノ民選議院之ヲ元老院ヘ訴フルヲ得ヘシ

第二十九條　執行中ノ法律ト新設スヘキ法律ト禁止スヘキ過失ト政事ノ諸分ニナスヘキ脩補等ニ付テハ第一ノ民選議院已ノ希望ヲ顯ハスヿヲ得ヘシ尤モ裁判所ヘ告訴シタル民訴及重輕罪ノヿニ付テ其權ナシ○「トリブナ」ニ於テ此條ニ基キ顯シタル處ノ希望ハ必ス行フヘキヿニ非ス且孰レノ官ニモ之ニ付テ必ス決議スルニ及ハス

第三十條　第一等ノ民選議院ハ己ノ會議ヲ延期スルトキハ已ノ議員ノ内十五人ヲ選ヒ之ヲ以テ委員ヲ作リ且其委員ニ於テ第一等ノ民選議院ヲ召集スヘキヲ思慮スルトキハ其召集ヲ爲ノ權ヲ右委員ニ與フルヿヲ得ヘシ

○佛蘭西一千八百十四年

第十五條　立法權ハ國王ト上院及民選議院ト共ニ之ヲ行フ

第十六條　國王ハ法律ヲ進言ス

第十七條　法律ノ議案ハ國王ノ命令ニ依リ之ヲ上院ニ差出シ或ハ

民選議院ニ差出ス然レトモ歳出入會計簿ノ法律ノ議案ハ必ス民選議院ヘ初メ差出スヘシ

第十八條　凡法律ハ兩院ニ於テ之ヲ自由ニ詳議シ兩院投票ノ過半ヲ以テ之ヲ決議スヘシ

第十九條　兩院共孰レノ一ニ付テモ國王ヨリ法律ヲ進言スル樣國王ヘ歎願ヲ呈スルヲ得ヘシ且其存意ニヨリ其法律ニ記載スヘキ一モ差示ヲ得ヘシ

第二十條　前條ニ記シタル處ノ歎願ハ兩院ノ中孰レノ院モ之ヲ爲スヲ得ヘシト雖モ豫メ之ヲ內密ノ會議ニ於テ評議セサルヲ得ス且之ヲ評議セシ日ヨリ十日后ノミ之ヲ他ノ院ニ届出ヘシ

第二十一條　若シ他ノ院ニ於テ此歎願ヲ承諾スルトキハ之ヲ國王ノ覽ニ入ルヘシ若シ他ノ院ニ於テ之ヲ辭スル時ハ同集會ノ時間ニ之ヲ再度差出スヘカラス

○佛蘭西一千八百十五年

第二條　立法權ハ皇帝ト議院之ヲ上院下院共ニ之ヲ行フナリ

○佛蘭西一千八百三十年

第十四條　立法權ハ國王ト上院下院ト共ニ之ヲ行フ

第十五條　法律ヲ進言スルヿノ權ハ國王ト上院下院共ニ之ヲ行フナリ然レトモ租稅ニ付テノ法律ハ初メ下院之ヲ決議スヘシ

第十六條　凡法律ハ兩院ニ於テ之ヲ自由ニ評議シ兩院投票ノ過半ヲ以テ之ヲ決議スヘシ

第十七條　凡法律ノ議案ハ國王或ハ上院之ヲ辭スルトキハ同集會ノ

時間中之ヲ再度差出スヲ得ス

○佛蘭西 一千八百四十八年

第百十條　民選議院ハ此建國法幷ニ之ニ定タル所ノ權利ノ保存ヲ佛蘭西國民ニ之ヲ預ケ愛國ノ心情ヲ以テ之ヲ注意センコトヲ望ム

第百十五條　建國法ヲ投票ヲ以テ決議シタル上民選議院ニ於テ政事萬務ヲ設立スル爲メ法律ヲ作立ニ仕掛ヘシ但追テ格段ノ法律ヲ設ケ右政事萬務設立ノ法律ノ目錄ヲ之ニ定ム可シ

第百十六條　共和政治統領ヲ始任スヘキ爲ノ撰擧ハ千八百四十八年十月廿八日ニ民選議院ヨリ爲シタル所ノ格段ノ法律ニ從テ之ヲナスヘシ

○佛蘭西 一千八百五十一年

○一千八百五十一年十二月廿日及二十一日ノ投票ニ因リ佛蘭西人民ノ路易拿破崙保那巴ニ授ケシ威權ヲ以テ制定シタル憲法共和政治ノ大統領ハ

佛蘭西人民ノ路易拿破崙保那巴ニ其威權ヲ繼續セシメント欲シ且十二月二日ノ布令書ニ定メタル基礎ニ循ヒ憲法ヲ制定スルニ必要ナル威權ヲ授ク

ト云フ決定ノ可否ヲ佛蘭西人民ヨリ述フ可シト定メタルヿヲ熟思シ且

第一　十年間職ニ居テ責ニ任ス可キ政府ノ長

第二　行政官ノミニ屬スル宰相

第三　法律ヲ草シ且議院ニ至テ其法律ヲ辨論スル爲メ最著名ナル者ヲ任用スル參議官

第四　法律ヲ商議シ可否ヲ述ル者ノ多寡ヲ以テ之ヲ議定スル議院但シ此議院ノ員ハ之ヲ選擧スルニ數名ヲ合シ選ム時ハ弊害ヲ生ス可キニ因リ佛蘭西全國ノ民投票ヲ用ヒ一名毎ニ之ヲ選ム可シ

第五　國中ノ貴顯才能ノ者ヲ撰用スル元老院但シ此元老院ハ政府ト國民トノ威權ヲ平均シ且憲法及ヒ國民自由ノ權ヲ監察ス可キ者ナリ

此五條ハ國民ノ許可ヲ得可キ爲メ示シタル憲法ノ基礎タルヿヲ熟思シ且國民ノ之ヲ可ナリト應答スル者七百五十萬人ナルヿヲ熟思シテ左ノ憲法ヲ布令ス

第一條　憲法ヲ以テ佛蘭西人民ノ公權ノ基礎タル千七百八十九年ニ布令セシ大趣旨ヲ認准シテ之ヲ確定ス

第四條　立法ノ權ハ共和政治ノ大統領、元老院、議院、相合同シテ之ヲ行フ

○英吉利

英國ノ憲法ニ於テハ其議政ノ全權ハ議院ニ在リ議院ノ權力ハ過テ上ナシ抑ヘテ制セス限リテ定ルヿナシ其事ノ淵源其人ノ事業境内ニ經界シカタシ又政治ノ体裁如何ニ拘ハラス不羈專裁ノ權力宜シク歸着スル所アルヘシ英國ノ憲法ニ由テ之ヲ議院ニ附與ス而シテ國王ハ議院ノ長ナルノミナラス又其終始ナリ王獨リ能ク之ヲ召フヘシ王死テ繼王未タ立タサルノ際ニ當テ止ムヲ得ス會合スルニ非レハ其議院ノ意ニ隨テ猥リニ集會スヘカラス王樞密議官ノ勸メニ由テ大璽官ヲシテ令ヲ出サシメ少クトモ集會前三十五日ノ内之ヲ召

スヘシ若シ開會中欠官アルトキハ王令ヲ出シテ新員ヲ撰ミ又閉院中欠官アルトキハ議長令ヲ出シテ其員ヲ充タシムヘシ「エドワード」三世ノ時ニ際テ定メタル法ノ十四條ニ議院一年ニ一度或ハ二度集合スヘキ例アリ又三十六條ニ毎年會合スヘキ例アリ○「チヤールス」一世ノトキニ定メタル法ノ十六條ニ王若シ三年ノ間會ヲ召サヽレハ大璽官貴族及庶人ヲ撰フノ令ヲ下スヘク若シ大璽官其事ヲ怠ラハ貴族十二人集リテ議員ヲ召フヿヲ得ヘシ其貴族モ亦之ヲ召フヿヲ怠ラハ府縣ノ法令ヲ行フ官裁判ヲ掌ル官各撰舉ノ令ヲ發スヘシ此諸官モ亦其務ヲ怠ラハ各府ノ庶民其議員ヲ撰フヘシ又其撰舉ヲ受クル議員若シ怠テ出サルトキハ過料ヲ當テ速ニ其會ニ列ラシムヘシ然レトモ「チヤールス」三世王政ヲ中興セシ后此法甚タ王權ヲ抑制スト爲シ之ヲ廢スト雖トモ其後ニ暨ンテ議院ヲ閉ルヿ永クモ三箇年ヲ越ユヘカラス又「ウリヤム」一世及「メリヤ」ノトキニ方テ議員屢會同スヘキ法ヲ立テタリ然レトモ英國革命以來陸兵或ハ水夫等其將ノ命ニ背キ或ハ士官其權ヲ仰カサル等ノヿアルトキ之ニ處スルノ法ヲ用ルモ國用ヲ給スルモ只一年間ナルヲ以テ王モ亦止ムヲ得ス年々議員ヲ會セサルヲ得ス又憲法ノ基礎タル故權舊格ニ由テ下院專ラ租稅ノヿヲ掌リ其意ニ隨テ之ヲ定メ王ノ令ト雖トモ理ニ當ラサレハ之ヲ許サヽルノ權アリ而シテ議院近來ハ歲ノ始メ六箇月ノ間年々會合スルノ例ト成リ各會當ニ延會ノ例ヲ以テ終ルヘク未タ決セサル議按ハ都テ其院ヲ閉ルトキニ止ミ議政兩局モ必ス同時ニ終ルヘシ而シテ王親ラ來リ或ハ名代ヲ遣リ又令ヲ出シテ院ヲ閉ツヘシ而シテ下院ノ議員其院內ニ集リ王若シ其前ニアラハ下院ノ議長集會中其爲セシヿヲ述ヘ而ル后ヲ王閉院ノ議按ニ許ヲ與ヘ王ノ告諭ヲ讀ミ其上ニテ上

院議長日ヲ限リ其會ヲ止ムヘシ然レ𪜈王若シ令ヲ出シテ之ヲ召スキハ元ト定ムル延會ノ期ヨリ早ク議員會合シテ其事ヲ執ルヘシ又閉院ノ期過キ王其與會ノ令ヲ下サヽルキト雖𪜈議員己ノ意ヲ以テ集會スルヲ得ス而シテ王議員ヲ集メ其事ヲ執ラシムルコハ集會ノ六日前令ヲ出スヘシ又散會トハ議員ヲ解クヿニシテ王自ラ臨ンテ之ヲ陳ヘ或ハ名代ヲ遣リ又閉院中ノ定例ニ隨テ布告ヲ出スモ總テ王ノ臆意ナリ或ハ會合ノ期過レ𪜈集會ノ令下ラサルキニ於テ之ヲ爲スヘシ又王死シ或ハ廢セラレ其位空シキキハ嘗テ議院其實ニ因テ解ケシヿアリト雖𪜈「ウリヤム」三世ノ世ニ於テ之ヲ改革シ新王即位ノ后六箇月マテハ其會ヲ延スヿアリト雖𪜈敢テ散會トセス又一千八百六十七年ノ改革ニテ後來何等ノヿニテ國王其位ヲ空フスル𪜈王之ヲ解クニ非レハ議院必ス其會ヲ保ツヘシ然レ𪜈王ノ空位ト散會及令ヲ出シ日ヲ剋シテ新員ノ會合ヲ促ス間ニ於テ繼王之ヲ延シ或ハ散スルニ非レハ直ニ前員集會シ六箇月ノ間其事ヲ執ルヘシ

○一千八百年一月一日英吉利愛爾蘭ト合併シ其院ト共ニ同月集會シテヿヲ議シ之ヲ大議會ト稱シ一千八百三十三年一月二十九日ノ集會ヲ改革議會ト稱セリ○愛爾蘭合併以來合衆王國議院集會ノ長短左ノ如シ

第一次　一千七百九十六年會ヲ興シ一千八百二年會ヲ散ス其間五箇年十一箇月十八日ナリ

第二次　一千八百二年八月三十日會ヲ興シ一千八百六年十月二十四日會ヲ散ス其間四箇月二十五日ナリ

第三次　一千八百六年十二月十五日會ヲ興シ一千八百七年四月二十九日會ヲ散ス其間四箇月十五日ナリ

第四次　一千八百七年六月二十二日會ヲ興シ一千八百十二年九月二十四日會ヲ散ス其間五箇年三箇月七日ナリ

第五次　一千八百十二年十一月二十四日會ヲ興シ一千八百十八年六月十日會ヲ散ス其間五箇年六箇月二十五日ナリ

第六次　一千八百十八年八月八日會ヲ興シ一千八百二十年二月二十九日會ヲ散ス其間一箇年六箇月二十五日ナリ

第七次　一千八百二十年四月二十三日會ヲ興シ一千八百二十六年七月二日會ヲ散ス其間六箇年一箇月九日ナリ

第八次　一千八百二十六年十一月四日會ヲ興シ一千八百三十年七月二十四日會ヲ散ス其間三箇年八箇月十日ナリ

第九次　一千八百三十年十月二十六日會ヲ興シ一千八百三十一年四月二十二日會ヲ散ス其間五箇月八日ナリ

第十次　一千八百三十一年六月十四日會ヲ興シ一千八百三十二年十二月三日會ヲ散ス其間一箇年五箇月二十日ナリ

第十一次　一千八百三十三年一月二十九日會ヲ興シ一千八百三十四年十二月三十日會ヲ散ス其間一箇年十一箇月一日ナリ

第十二次　一千八百三十五年二月十九日會ヲ興シ一千八百三十七年六月二十八日會ヲ散ス其間二箇年九箇月ナリ

第十三次　一千八百三十七年十一月十四日會ヲ興シ一千八百四十一年七月二十三日會ヲ散ス其間三箇年七箇月九日ナリ

第十四次　一千八百四十一年八月十一日會ヲ興シ一千八百四十七年六月二十三日會ヲ散ス其間五箇年十一箇月六日ナリ

第十五次　一千八百四十七年九月二十一日會ヲ興シ一千八百五十二年六月一日會ヲ散ス其間四箇年十一箇月九日ナリ

第十六次　一千八百五十二年十一月四日會ヲ興シ一千八百五十七年三月二十日會ヲ散ス其間四箇年四箇月十六日ナリ

第十七次　一千八百五十七年五月三十日會ヲ興シ一千八百五十九年四月二十三日會ヲ散ス其間一箇年十一箇月二十三日ナリ

第十八次　一千八百五十九年五月三十日會ヲ興シ一千八百六十五年六月六日會ヲ散ス其間六箇年一箇月二日ナリ

第十九次　一千八百五十六年二月六日會ヲ興シ一千八百六十八年六月三十一日會ヲ散ス其間二箇年五箇月二十五日ナリ

第二十次　一千八百六十八年十二月十日會ヲ興シ未タ之ヲ散セス

夫レ議院ノ權力ハ至大至重ニシテ其權合衆王國及其屬州屬國内ニ行レサル所ナク未タ無キ新法ヲ立テ既ニ有ル舊法ヲ補正廢棄スルヿヲ得國法ヲ改革變更シ政教及文武ノヿヨリシテ聽訟斷獄等ノヿニ至ルマテ萬機ヲ統括ス大不列顛（グレートブリテイン）○「イングランド」「ウエールス」及「スコットランド」ノ總稱ナリ愛爾蘭行政ノ權ハ王ニ帰スルノ名アリト雖ヒ其實各省長官古ヘ樞密議官或ハ議王（ピーコンサー　キングインコンサー）ト稱セシモノヽ職ヲ兼ネ皆「ライトチノレブル」ノ尊稱ヲ帶ヒ智ヲ盡シ慮ヲ勞シ王ノ廟議ニ參與シ之ヲ維持シ決定ノ事務ヲ施行スルニ至レリ而シテ其各省長官皆必ス上下兩院ノ中ニ出テ議員ノ問ヲ受レハ速ニ之ニ答ヘ政府ト一休トナリ其爲ス所ノ事件及其施ス所ノ處置ヲ説明ス議員之ト討論シ詳ニ其事ノ宜キヲ研究シ殊ニ下院議員過半數之ト同論協議セサレハ宰相其位ヲ保ツ能ハス退テ其職ヲ辭シ其在職全ク議員ノ意ニ在リ故ニ其撰舉素ヨリ議員ヨリ出サレヒ其廢黜ノ權議員ニ在ルヲ以テ現ニ之ヲ撰フノ形無シト雖ヒ實ハ其權ヲ握ルニ異ナラス首輔宰相ハ會計事務ヲ統括スル者ニシテ時アツテ租税事務ヲ兼ヌ則チ各省長官ノ長タル者ナ

リ而シテ首輔宰相ハ王ニ薦メ以テ宰相ニ任シ專ラ各省ノ事務ヲ掌ラシム又王眷顧特賜スル所ノ官職ト雖ヒ自ラ之ヲ人ニ分與スルヲ得ルヿ多シ眷顧特賜トハ時アッテ有用ノ人堅ク其職ヲ辭シ之ヲ止メテ止ル能ハス或ハ勤勞年ヲ積ミ其功ハ已ニ著ク齡モ亦老ヒ事ヲ執ル能ハサル者ヲ優待スルヿアレヒ多クハ寵臣ヲ愛シ私恩ヲ市ヒ之ニ勞勞フシテ報多ク若クハ名有テ實無キ職ヲ命シ大ニ利潤ヲ得セシムルヿナリ

○獨逸

第五條　帝國ノ立法權ハ上院及下院共同シテ之ヲ行フ兩院ノ過半數決定ノ諧同ハ帝國法律ノ爲ニ緊要ニシテ之ヲ以テ足レリトス（フンデスラート、ライヒスターグ）

○海陸軍ノ事及此國憲ノ第三十五條ニ掲載シタル租稅ノ事ニ關スル議案ニ付上院ニ於テ意見ノ數派ニ分レタル時議長ノ投言ニ由リ現在ノ設立ヲ保タシムル爲ニハ必ス之カ決定ヲ爲スヘシ

第十六條　緊要ナル議案ハ上院ノ決定ニ由テ皇帝ノ名義ヲ以テ下院ニ下附シ而シテ下院ニ於テハ上院ノ議員或ハ上院ヨリ特任シタル委員ハ其議案ノ取扱ヲナスヲ得ヘシ

○白耳義

第二十七條　起議ノ權ハ立法權ノ三杖（國王上院下院各之ヲ有スル議案ヲ發スルノ權）均トス

○三枝平　○然レヒ國計、及徵兵ニ係リタル諸法ハ必ス最先ニ代議士院ノ公評ヲ取ルヘシ下院上院ノ上ニ居ル

第二十八條　法章ノ中明疑條ヲ以テ定例ノ大權ヲ爲スモノハ一ヒ申明ヲ經、後獨リ立法權ニ屬ス裁メ以テ未來ヲ例スヘカラサル日ノ例據タリ司法官ノ明法申律ハ以テ既往ヲ

ヲ云

○瑞典

第八十七欵　議院ハ國王ト協同ノ上ニテ民法刑法ヲ制定シ既定ノ諸法ヲ改正廢革スルノ權アリ國王ハ議院ノ允准ヲ得ルニ非レハ新法ヲ創制シ右法ヲ廢止ス可ラス議院モ亦國王ノ許可ヲ得ルニ非レハ能ハス○法律ノ議案ハ始メ議院ノ一局ヨリ持出シ立法課ノ意見ヲ聞然ル上ニテ議院ニ於テ之ヲ決定スヘシ若シ新法ヲ創制シ或ハ古法ヲ改正廢革スルノ發言居多ナルトキハ其方略ヲ立テ國王ニ奏聞スヘシ國王ハ內閣大臣及大法院ト商量シ其意見ヲ聽キ決議ノ上ニテ其旨ヲ議院ニ報告シ右請求セル議案ヲ聞屆或ハ其聞屆難キ趣ヲ通達スヘシ若シ國王議院ヲ閉ル前ニ其決議ノ趣

ヲ通達シ難キヿアルトキハ其議案ヲ聞屆タル者ト看做シ議院ノ再會セサル前ニ之ヲ公布スルヿ勝手タルヘシ○前文ノ手續ヲ用ヒサルトキハ乃チ其議案ヲ聞屆サル者ナルカ故ニ國王ハ議院ノ再會スルヲ俟テ右議案ノ聞屆難キ趣ヲ通達スヘシ若シ國王法律ヲ創制スル方略ヲ議院ニ付ノ問ナリト考フトキハ預メ內閣大臣ト大法院トニ此事ヲ商量シ其意見ヲ聽キ其方法并意見ノ趣ヲ通達スヘシ議院ニ於テハ名代人撰舉ノ法律中ニ揭ケタル手續ヲ以テ之ヲ取扱フ可シ○第二議院ハ更ニ國王ト協同ノ上ニテ敎法ヲ創制シ或ハ之ヲ改正廢革スルノ權アリ然ルニ之ヲ施行スル前ニ必ス大敎會ノ允准ヲ得ルヲ要ス若シ敎法ノ事ニ就キ國王ト發議ニ因テ之ヲ創制改正セント欲スルトキハ內閣大臣并大法院ノ意見ト國王ノ趣意ヲ併セテ之ヲ議院ニ通達スルヿ都テ前文ノ手續同樣タルヘ

シ亦此等ノ法律ノ議案ヲ下付シ或ハ之ヲ聞届テ議院散會シ而ノ再會ノ時ニ至リテモ未タ公布シテ法律ト爲サヽル者ハ之ヲ聞届サル者ト看做ス可シ但右樣ノ時ニハ國王ヨリ議案ヲ聞届難キ趣意ヲ議院ニ通達スルヲ要ス

第八十八欵　民法刑法及敎法ノ解義ハ總テ前欵ノ新法同樣ノ手續ヲ以テ之ヲ定ムヘシ議院休會ノ間ニ當リテ諸局ヨリ法律ノ眞意ヲ請問スルトキハ國王ハ大法院ヲ以テ之ヲ解釋セシムヘシト雖モ其後議院集會ノ上ニテ之ヲ取消スヿアルヘシ殊ニ敎法ニ至リテハ右解釋ヲ爲シタル後ニ至リテ集會スル處ノ大敎會ニ於テ之ヲ取消ス事アルヘシ○右ノ如ク取消シタル釋義ハ直ニ無用ニ屬スルカ故ニ諸法院ニ於テ之ヲ遵用ス可ラス

○西班牙

第十二條　法律ヲ制定スルノ權ハ國會ト國王トニ屬ス

第三十五條　國王及立法各院ハ法律起草ノ權ヲ有ス

○葡萄牙

第十三條　立法權ハ國王ノ制可（サンクシオン）國會ニ於テ起議シタルヲ待ノ外總テ國會ニ屬ス

第五十七條　國王ハ定案ノ制可ヲ拒ミタル時左ノ詞ヲ以テ勅答スヘシ

國王ハ便宜決定センカ爲ニ法律議案ヲ熟慮センヿヲ望ム

議院ハ勅答ニ對シ左ノ答辭ヲ上ルヘシ

議院ハ陛下ノ國家ノ爲ニ謀猷スル所アルヲ奉謝ス

第五十八條　前條ニ擧ル國王ノ拒否ハ純全ノ効アリトス王一タヒ定案ヲ拒メハ復タ反スヲ得ス

第五十九條　國王ハ定案奏呈ノ日ヨリ一ケ月内ニ其制可ヲ許否ス

第六十條　國王ハ國會ノ議案ヲ許允スル時左ノ勅語ヲ下ス

國王承允ス

議案ハ其制可ヲ得ルノ後始テ王國ノ法律トシテ之ヲ公布スルヲ得議案ノ二其一本ハ國王署名スルノ後之ヲ奏呈シタル議院ノ書庫ニ藏メ一本ハ當該執政官奉行スル所ノ法律公布ノ用ニ供スル後之ヲ「シアルチユー」塔樓ニ收藏スヘシ

○荷蘭

第百四條　立法權ハ國王及國會合同シテ之ヲ行フ

第百五條　國王ハ其理由ヲ陳スル宣旨(メサンシュ)ヲ以テシ又ハ委員ニ任シテ法律議案又ハ其他ノ起議ヲ下院ニ附加ス

第百六條　下院ハ定時ニ抽籤ノ法ヲ用ヒテ更撰スル議員ヲ分任シタル各課ニ於テ調査スルノ後ニ非レハ國王ノ下附スル何レノ起議ト雖モ總會議ニ於テ討論セス

第百七條　下院ハ國王ノ起議ヲ改竄スルノ權ヲ有ス

第百八條　下院ニ於テ改竄スルヿナク若クハ改竄シテ議按ヲ採用スル時ハ左ノ例文ヲ添テ之ヲ上院ニ送移ス

國會ノ下院ハ別冊國王ノ議案ヲ上院ニ送移ス且之ニ諧合スヘシト思考ス

下院ニ於テ國王ノ議案ヲ付ケタル時ハ左ノ例文ヲ併セテ之ヲ國王ニ奏聞ス

國會ノ下院ハ王ノ能ク國益ニ注意スルノ厚キヲ感戴ス且謹ンテ該議案ヲ再思ニ附センヿヲ上請ス

第百九條　上院ハ第百六條ニ準シ下院ニ於テ諧合シタル國王ノ議案ヲ論議ス○上院ハ該議案ニ合意シタルトキ左ノ例文ヲ以テ之ヲ國王ニ奏上シ下院ニ通知ス

國王ニ奏上スルノ文

國會ハ王ノ能ク國益ニ注意スルノ厚キヲ感戴ス及別冊ノ議案ニ諧合ス

下院ニ通知スル文

國會ノ上院ハ某月日下院ヨリ送移セシ某件ニ管スル國王ノ起議ニ諧合セシヿヲ下院ニ通知ス

上院ハ國王ノ起議ニ諧合スルヿヲ得サルトキ左ノ例文ヲ以テ之ヲ國王ニ奏上シ及下院ニ通知ス

國王ニ奏上スル文

國會ノ上院ハ王ノ國益ニ注意スルノ厚キヲ感戴ス且謹ンテ該起議ヲ再思ニ附センヿヲ上請ス

下院ニ通知スル文

國會ノ上院ハ某月日下院ヨリ送移セシ某件ニ管スル起議ヲ更ニ再思ニ附センヿヲ謹ンテ國王ニ上請セシヿヲ下院ニ通知ス

第百十條　國會ハ法律議案ヲ國王ニ奏上スルノ權ヲ有ス

第百十一條　前條ニ揭ル起草ノ權ハ特ニ下院ニ屬ス但下院ハ國王ノ起議ニ係リ定メタル規式ニ準シテ法律議案ヲ論議シ之ヲ許認シタルトキハ左ノ例文ヲ添テ之ヲ上院ニ送移ス

國會ノ下院ハ別冊ノ議案ヲ上院ニ送移ス及國王ニ之カ制可ヲ上

請スヘシト思考ス

第百十二條　上院ニ於テ定式ニ循ヒ論議スル後法律議案ヲ許認スルトキハ左ノ例文ヲ添テ之ヲ國王ニ奏上ス

國會ハ親ラ國益ニ適合セリト思量スル別冊ノ議按ヲ國王ニ奏上ス伏テ願クハ陛下ノ之ニ制可ヲ與ヘンコトヲ

上院ハ議案ヲ承認セシコトヲ左ノ例文ヲ以テ下院ニ通知ス

國會ノ上院ハ某件ニ管スル某ノ議案ヲ許認シ及國會ノ名ヲ以テ之ヲ制可センコトヲ國王ニ上請セシコトヲ下院ニ通知ス

上院ハ議案ヲ許認セサルトキ左ノ例文ヲ以テ之ヲ下院ニ通知ス

國會ノ上院ハ別冊ノ議按ヲ制可センコトヲ國王ニ上請スヘキ充分ノ理由ヲ認メス

第百十四條　國王ハ務メテ急ニ國會ヨリ奏上スル法律議案ノ允否ヲ之ニ報知ス其報知ハ左ノ例文ヲ以テス國王准允ス議按ヲ許允スル時又ハ國王討議スヘシ議案ヲ斥クル時

第百十七條　國內施政ノ總則公布ノ方法及之ニ執行ノ力ヲ與フルノ期限ハ法律ヲ以テ定ム

第百十八條　建國法及其他ノ法律ハ特殊ノ條則ヲ掲ル場合ヲ除クノ外獨リ歐洲內ノ荷蘭領地ニ於テ執行ノ力ヲ有スルノミ

○伊太利

第三條　立法權ハ國王元老院下院合同シテ之ヲ行フ

第五十六條　立法權ノ三派國王上院下院ノ何レニ於テモ一タヒ否拒シタル法案ノ發議ハ同時ノ集會ニ於テ復タ用ユルヿヲ得ス

第七十三條　全國民ノ爲ニ法律ノ主旨ヲ釋明スルハ立法權內ニ屬

第八　元老院及其權利義務　上院

○佛蘭西　一千七百九十九年

第十五條　護法元老院（セナコンセルバトルノー）ハ終身委任シ且免職スヘカラサル議員八十人ヲ以テ編制スル者ナリ○初メ護法元老院ヲ編制スルニハ議員六十二人迄擴張シ第九年中六十四人迄之ヲ擴張シ又追々右ノ通初ノ十年間毎年右ノ數ニ二人ヲ增加スルヲ以テ八十人ノ定數ニ充タシムヘシ

第十六條　右議員ノ一人ヲ選任スルニハ元老院ヨリ之ヲ爲スヘシ

右ノ爲民選議院ニ於テ一人ヲ薦メ第一等ノ民選議院（プレミエル）ニ於テ一人ヲ薦メ第一等ノ宰相（コンシュル）モ亦一人ヲ薦ムヘシ而メ元老院ハ其薦メタル三人ノ內一人ヲ選擧シ之ヲ元老議員ニ任スヘシ但シ右人ヲ薦ムルノ權ヲ有スル三官ノ內民選議院兩院及第一等「コンシュル」二官ハ同一人ヲ薦

ムルノ場合ニ於テハ元老院ハ二人ノ内ノミヨリ元老議員ヲ選任スヘシ又三官共同一人ヲ薦ムルトキハ元老院ハ必ス此人ヲ任スヘシ

第十七條　第一等ノ宰相ハ已ノ職務ノ期限濟シニヨリ或ハ已免職ヲ願シニヨリ退役スルトキハ元老院ノ議員トナルノ權ヲ有スヘキハ當然ナルノミナラス且元老院議員ノ職ヲ勤ムルヿノ義務ヲ免ルヘカラス第二等ノ「コンシユル」及第三等ノ「コンシユル」ハ退職セシ日後ノ月中ニ元老院ヘ出勤スルヿノ權ヲ有スヘシト雖モ必ス之ニ出勤スルニ及ハス且免職ノ所以ヲ以テ退職スルトキハ右ノ權ヲ有ス可ラス

第十八條　元老院ノ議員ニ爲リシ上ハ終身就レノ他ノ公用職役ニ任セラルヽヲ得ス

第十九條　前第九條ニ從テ各洲ニ於テ制作シタル連名書ハ皆元老院ヘ差送ルヘシ其連名書ヲ合セテ全國ノ連名書ヲ編纂ス

第二十條　元老院ハ右ノ全國連名書中人ヲ選ヒ之ヲ民選議院ノ議員ト第一等ノ民選議員ノ議院ト共和政事ノ宰相ト覆審院ノ裁判役及會計委員ノ役ニ任スヘシ

第二十一條　第一等ノ民選議院或ハ政府ヨリ官員ノ處分ハ建國法ニ背クトノ故ヲ以テ其處分ヲ元老院ヘ訴フルトキハ元老院其處分執行ヲ許シ或ハ之ヲ取消ス但公用職役ニ任スルヲ得ヘキ國民ノ連名書モ亦其處分ノ類ニ入ルヿトス

第二十二條　國ノ不動産ヲ定メテ其歳入ヲ以テ元老院ノ雜費ニ供スヘシ元老院ノ各議員ノ年給ハ右ノ歳入ノ内ヨリ出スヘキ者ニシテ第一等ノ宰相ノ年金高ノ二十分ノ一ナルヘシトス

第二十三條　元老院ノ會席ニ來聽ヲ許サス

第二十四條　先般既ニ退役セシ「シエイエス」及「ロジエジコフ」ト云宰相二人ハ護法元老院ノ議員ニ之ヲ任ス

右兩人ハ此建國法ヨリ委任スヘキ第一等及第二等ノ宰相ヲ以テ協議シテ元老院ノ議員ノ過半ハ選任サル、後自カラ其殘リノ議員ヲ選任スヘシ○元老院ハ編制セシ上其已ニ委任シタル選任ノ所業ニ掛ヘシ

○佛蘭西　一千八百〇二年

第三十九條　三人ノ宰相ハ終身委任スルナリ且元老院ノ議員ニシテ之ニ上席スルヿナリ

第四十條　第二等及第三等ノ宰相ハ元老院第一等ノ「コンシユル」ノ薦ニ依リ之ヲ委任ス

第四十一條　右ノ爲メニハ先ツ宰相ノ欠員アル時ハ第一等ノ「コンシユル」ハ右ノ代理ノ爲メニ一人ヲ元老院ニ薦ムヘシ如シ元老院ニ於テ此人ヲモ亦排斥スルトキハ第一等ノ「コンシユル」ハ又一人ヲ薦ムヘシ如シ元老院ニ於テ此人ヲモ亦排斥スルトキハ第一等ノ「コンシユル」ハ又一人ヲ薦ムヘシ且此人ハ必ス委任セサルヲ得ス

第四十二條　第一等ノ宰相ハ己ノ死去ノ後己ノ代役ヲ勤ムヘキ人ヲ薦ムルヿヲ當然ト思フ時ハ前條ニ定メタル方式ニ從ヒ之ヲ爲スヿヲ得ヘシ

第四十三條　第一等ノ宰相ノ死去ノ後チニ其代役ヲ勤ムヘキ爲メ委任シタル者ハ第二等及第三等ノ「コンシユル」ノ輔佐シタル第一等ノ「コンシユル」ノ面前ニ共和政事ニ對シテ誓ヲ立ヘシ但右ノ誓

ハ元老院諸卿國議院民選議院第一等ノ民選議院(トリブナ)覆審院大敎正敎正控訴裁判所ノ長選立議會ノ長勳社(レシヨントフル)ノ第一位ノ者及共和國ノ二十四大府ノ邑官ヲ集メタル場所ニ之ヲ爲スヘシ但政府ノ總書記官ハ其誓ヲ立シフノ調書ヲ作ルヘシ

第四十四條　右ノ誓ハ左ノ如シ

我建國法ヲ守置スルフ人民ノ本心ニ悖ラス封建ノ制度ノ再復ヲ防止スルフ共和國ノ防禦及名譽ノ爲メノ外爭戰ヲナサス及其節國民ヨリ任スヘキ權威ヲ國民ノ幸ノ爲メノミ用ユヘキフヲ誓フ

第四十五條　第一等ノ宰相死去セシ後ニ其代役ヲ勤ム可キ爲メ委任シタル者ハ前條ノ誓ヲ立シ上元老院ヘ出勤シ直ニ第三等「コンシユル」ノ次席ニ就ク可シ

第四十六條　第一等ノ宰相ハ已レ死去セシ後其代役ヲセシメントスル人ノ名ヲ書面ニ記シ其書面已レノ死去ノ後ノミ開ク爲メ之ヲ元老院ニ預ケ納ムルヲ得ヘシ

第四十七條　前條ニ記シタル場合ニ於テ第一等ノ宰相ハ第二等及第三等ノ「コンシユル」並ニ諸卿ト國議院ノ課長トヲ召集シ其官員ノ面前ニ自己ノ印ヲ以テ封シタル右ノ書面ヲ政府ノ總書記官ヘ差出スヘシ右出席ノ官員ハ悉ク其書面ニ加印スヘシ○總書記官ハ諸卿及國議院ノ課長ノ面前ニテ之ヲ政府ノ古記藏ニ納ムヘシ

第四十八條　第一等ノ「コンシユル」古記藏ニ納メタル右書面ヲ返取セント欲スルトキハ前條ニ記シタル法式ニ從ヒ之ヲ爲スヲ得ヘシ

第四十九條　第一等ノ宰相死去セシ後ヲ其代役ヲ委任セント望ム所ノ人ヲ記シタル書面ヲ政府ノ古記藏ニ預置キタルトキハ總書記

官ハ諸卿及國議院ノ課長ノ面前ニ之ヲ藏ヨリ出シ第二等及第三等ノ「コンシユル」ノ面前ニ其封印及其實正ナルヿヲ檢査スヘシ其後右ノ書面及其納藏ノ調書封印及實正ヲ檢査セシノ調書ノ寫ヲ集メ政府ノ告書ヲ以テ之ヲ元老院ヘ渡スヘシ

第五十條　第一等ノ宰相ヨリ已レ死後ノ代役ニ薦タル人ハ元老院之ニ委員セサルヒハ第二等及第三等ノ「コンシユル」ハ各々一人ヲ薦ムヘシ如シ右ノ兩人ノ內孰レノ人モ亦委任セサルヒハ第二等及第三等ノ「コンシユル」ハ各又一人ヲ薦ムヘシ而シテ元老院ハ其兩人ノ內一人ニ必ス委任スヘシ

第五十一條　如シ第一等ノ宰相ハ其代役ノ爲メ人ヲ薦メスシテ死去スルヒ第二等及第三等ノ「コンシユル」ハ各前條ニ從テ二度人ヲ薦メ元老院如シ之ヲ委任セサルヒハ又各々一人ヲ薦ム可シ而シテ元老院ハ三度目ニ薦メタル兩人ノ內一人ニ必ス委任スヘシ

第五十二條　孰レノ場合ニモ前條ノ薦メ及委任ノ所業ハ第一等ノ宰相死去セシヒヨリ廿四時間ニ爲シ終ルヘシ

第五十三條　法律ニ於テハ各第一等ノ宰相ノ終身ニ至ル迄政府ノ費高ヲ定ムヘシ

第五十四條　元老院ハ元老院議定書（セナチユス、コンシユルトナルカニツク）ノ休裁ノ決定ヲ以テ左ノ件々ヲ定ムヘシ但「セナチユス、コンシユル、トナルカニツク」トハ即チ建國法ノ執行ニ管スル元老院ノ決定ニシテ建國法ニ屬スルモノナリ之ヲ譯シテ元老院ノ建國法決定ト記ス

第一　屬國建國法

第二　建國法ニ於テ豫メ揭記セサル諸件ノ內都テ建國法ノ執行ニ要スル件々

第三　意ノ疑シキ建國法ノ箇條ノ判斷

第五十五條　元老院ニ於テハ元老院ノ決定ト云決定ヲ以テ左ノ事ヲ爲ス可シ

第一　一州或ハ數州ニ於テ陪審ノ職務ヲ停止スヘキヿハ當然ト思フトキニ其停止ヲ爲ス事

第二　必要ノ場合ニ於テハ一州或ハ數州ニ建國法ノ執行ヲ停止スヘキ旨ヲ公告スヘシ

第三　建國法ノ第四十六條ニ從テ取押ヘタル者ハ其取押ヘタル日ヨリ十日間ニ裁判所ヘ出タサヽルノ場合ニ於テハ其人ヲ裁判所ヘ召出ヘキ日限ヲ定ムル事

第四　裁判所ノ裁判ハ國家ノ安寧ニ害スルトキハ其裁判ヲ取消ス事

第五　民選議院及第一等ノ民選議院ヲ解散スル事

第六　宰相ヲ委任スル事

第五十六條　元老院ノ建國決定及元老院ノ決定ハ政府ノ勸告ニヨリ元老院ニ於テ之ヲ評議ス元老院ノ決定ハ議員ノ過半ノ投票ヲ以テ之ヲ決議スルヲ得ヘシト雖モ建國決定ノ爲メ出席議員ノ三分ノ二ノ投票ヲ以テセサレハ之ヲ決議スルヲ得ス

第五十七條　前第五十四及五十五條ニ記シタル諸件ニ管スル元老院決定ノ議案ハ三ツノ宰相ト卿兩人元院議員兩人國議院ノ議官兩人及勳社ノ第一位ノ者兩人等ヲ以テ編制シタル內密議院ニ之ヲ評議スヘシ但第一等ノ「コンシユル」ハ此議院ヲ集會セシメントスル毎ニ其議院ヲ編成スヘキ者ヲ定ムヘシ

第五十八條　第一等ノ宰相ハ右ノ內密議院ノ存意ヲ聞取リシ上平

和及同盟ノ定約ヲ確定ス尤モ其定約ヲ班布セサル前ニ之ヲ元老院ヘ報知セサルヲ得ス

第五十九條　民選議員或ハ第一等ノ民選議院ノ議員又ハ覆審院ノ裁判官ヲ委任スル爲メ元老院ヨリ爲ス所ノ決定ハ定書ノ名ヲ附スヘシ（アレテ）

第六十條　元老院ノ取締及支配ニ管スル元老院ノ決定ハ決議書ノ名ヲ附スヘシ（テリヘヲシヨン）

第六十一條　建國法ノ第十五條ニ記シタル元老院議員八十人ノ定數ヲ全備スル爲メニハ共和政治ノ第十一年中ニ元院院議員十七人ヲ選任スヘシ右ノ委任ハ第一等ノ宰相ノ薦メニ依リ元老院之ヲ爲スヘシ右ノ爲メ第一等ノ「コンシユル」ハ選立議會ヨリ選擧シタル國民ノ連名書中ヨリ三人ヲ選擧スヘシ但元老院議員ノ定數ニ至ル迄以後爲スヘキ議員ノ他ノ委任ノ爲メニモ其規則ニ從フヘシ

第六十二條　勳社ノ大支配院ノ議員ハ其年齡ヲ問ハス當然元老院ノ議員トナルヘシ

第六十三條　州ノ選立議會ノ薦メニヨラスシテ第一等ノ宰相ハ才能及勳功ノ優レタル國民ヲ元老院ノ議員ニ任スルヲ得ベシ尤モ其國民ハ元老院ノ爲メ建國法ニ定メタル年齡ニ充タサルヲ得ス且既レノ場合ニモ元老院ノ議員ノ數ハ百二十員ニ過ク可カラス

第六十四條　元老院ノ議員ハ宰相ト卿ト「レジヨンドノル」ノ支配員ト公學檢査官ノ役ヲ兼勤スルヲ得且非常ノ用務ヲ假ニ委托サルヽヲ得ヘシ○毎年元老院ハ院ニ於テ書記役ヲ勤ムル爲メ已レノ議員ノ內兩人ヲ選任スヘシ

第六十五條　諸卿ハ元老院ニ出席スルヲ得ヘシト雖モ元老院議員ノ職位ヲ有セサレハ之ニ決議ノ權ナカル可シ

○佛蘭西一千八百四年

第五十七條　元老院ハ左ノ如ク編制ス

第一　滿十八歲ニ至リタル佛蘭西國皇子

第二　帝國大臣ノ位ニ任シタル者

第三　州ノ選立議會ヨリ定立シタル連名書ノ內皇帝ノ選擧シタル者ヨリ推薦シタル若八十八

第四　皇帝ヨリ元老院議員ノ位職ニ適當スト思フ者

一　元老院議員ノ數ハ千八百二年ノ八月四日元老院ノ建國決定ノ第六十三條ニ定メタル數ヲ過クル時ハ右ニ付テ千八百三年正月三日ノ元老院ノ決定ヲ行ハンカ爲メ格別ノ法律ヲ設クヘシ

第五十八條　元老院ノ議長ハ元老議員ノ內ヨリ選擧スヘキ者ニシテ皇帝之ヲ委任ス議長ノ職務ノ期限ハ一年トス

第五十九條　元老院ノ議長ハ皇帝ノ命令ニヨリ或ハ左ノ第六十條及第六十四條ニ記シタル委員ノ願或ハ左ノ第七十條ニ從テ議員一人ノ願或ハ元老院ノ內務ニ付テ元老院ニ附屬シタル官員ノ願ニヨリ議員ヲ召集ス但委員ノ願ニヨリ或ハ議員一人ノ願ニヨリ召集スルヿアル時ハ議長其召集ノ旨ト召集ノ原由ト及其評議ノ結果ヲ皇帝ニ報呈スヘシ

第六十條　元老議員ノ內ヨリ選擧シ且元老院ヨリ委任シタル七人ノ委員アリ建國法ノ第四十六條ニ從テ取押タル國民ノ內其取押

シ日ヨリ十日ノ内ニ裁判所ヘ送ラサル者アルトキハ諸卿之ヲ右ノ委員ニ報告シ委員ハ其事ヲ吟味スヘシ

右ノ委員ハ國民自由ノ元老委員ト稱ス（コンミッション、ヴエネトリヤル、トラ、リベルテ、アンヴヒジヒエル）

第六十二條　委員事實ヲ吟味シ本人裁判所ヘ召出サヽル前繫獄スルヲ得ヘキ期限ヲ增セシ事ヲ國家便益ニ要スルヿモ無シト思慮スル時ハ其取押ヲ命シタル卿ニ本人ヲ放免シ或ハ裁判所ヘ差出ヘキ樣請求スヘシ

第六十三條　前條ニ從テ委員ハ同月中三度卿ニ右ノ請求ヲ爲セシト雖モ入牢シタル者ハ放免セラレス裁判所ニモ召出サレサル時ハ委員ハ元老院ヲ召集スルコトヲ願フヘシ元老院ハ議長ニ召集セラルヽ後事ヲ吟味シ塲合ニ應シ左ノ決定ヲ爲スヲ得ベシ○某儀右ハ蓋無理ニ入牢サルヽヿカト推量ス○其後左ノ十三編ノ第百十二條（大審院ノ編ナリ）ニ從テ爲スヘシ

第六十四條　元老院議員ノ内ヨリ選舉シ且元老院ヨリ委任シタル七人ノ委員ヲ取設ケ右ハ著書自由ノ原則ノ執行ヲ注意スルヿヲ擔當セシムルヿナリ定期ノ版告ヲナシ前金拂ヲ以テ買入ル、出版書類ハ右ノ委員ノ檢査ニ關スルヿナシ右ノ委員ハ著書自由ノ元老委員ノ名ヲ用フヘシ（コンミッション、ヲエネトリヤル、ドロ、リベルテ、ドロ、プレヌス）

第六十五條　著述者版刻師及書肆己ノ書籍ノ版刻或ハ賣出スヿヲ妨ケラルヽヿニ付テ訴訟ヲ爲サントスル時ハ直ニ右ノ委員ニ願訴ヲ出スヲ得ヘシ

第六十六條　前條ノ塲合ニ於テ委員ハ事ヲ吟味シ右ノ版刻ノ禁止ハ國家ノ便益ニ要スルヿナシト思フ時ハ右ノ禁止ノ命令ヲ發セシ卿ヘ其命令ヲ引戻ス可キヿヲ請求スヘシ

第六十七條　前條ニ從テ同月中三度卿ヘ照會スト雖也版刻ノ禁止ヲ廢セサレハ委員ニ於テ元老院ノ召集ヲ願フヘシ議長元老院ヲ召集シ元老院ニ於テ事ヲ評議セシ上場合ニヨリ左ノ決定ヲ爲スヲ得ヘシ○蓋右ノ處置ハ著書自由ノ原則ノ背犯ナル哉ト推量スル

其後左ノ第十三編大審院ノ第百十二條ニ記スル所ニ從テ爲スヲナリ

第六十八條　元老院ノ右委員ノ内四ケ月目ニ一員ハ退職スヘシ

第六十九條　民選議院ヨリ布告シタル法律ノ草按ハ其決議シタル日ニ之ヲ元老院ヘ送リ元老院ノ古記藏ニ納メ置ヘシ

第七十條　元老院ノ議員ハ左ノ故ヲ以テ民選議院ノ就レノ布告ヲモ元老院ニ訴フルヲ得ヘシ

第一　封建ノ政法ヲ復起セントノ意ヲ著スヿノ故

第二　競賣ニ渡シタル國有財産ヲ取上ク可カラサルトノ規則ニ背クヿノ故

第三　建國法ト法律ト規則トニ從ハスシテ評議セシトノ故

第四　帝位ノ特權或ハ元老院ノ特權ニ抵觸スル故但右ノ外千七百九十九年十二月十三日建國法ノ第二十一條及三十七條ニ記シタル事モ之ト俱ニ執行フヘシ

第七十一條　元老院ニ於テ民選議院ノ布告ヲ爲シタル日ヨリ六日内右ノ布告ニ付テ已レノ内選任シタル委員ヨリ爲セシ屆書ニ基キ之ヲ決議セシ上一日ニ一度宛爲シタル三箇讀ヲ爲セシ後此法律ノ議案ヲ班布スルニ及ハサル旨ヲ陳述スルヲ得ヘシ議長元老院ヨリ其故ヲ添テ爲シタル決定書ヲ皇帝ニ持參スヘシ

第七十二條　前條ノ場合ニ於テ皇帝國議院ノ存意ヲ問ヒシ上場合

ニヨリテ或ハ布告ヲ出シ以テ元老院ノ決定ヲ承諾シ或ハ法律ヲ班布セシム

第七十四條　一箇ノ選立議會ノ總体ノ選立所業及元老院ト民選議院ト第一等ノ民選議院ノ議員ノ役ニ入ヲ薦ムル爲メノ格別ノ選立所業ハ元老院ノ決定ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ建國法ニ背犯スルモノトシテ之ヲ取消スヲ得ス

第七十五條　國議院ニ於テ法律ノ草案或ハ施政規則ヲ評議スルニ平常事務議官ノ全部ノ三分ノ二出席セサルヲ得ス○孰レノ場合ニモ出席シタル議官ノ數ハ二十五人以上ナラサルヲ得ス

第七十六條　國議院ハ左ノ通リ六課ニ分ツヿナリ

法制課　内務課　財務課　陸軍課　海軍課

貿易課

第七十七條　凡國議院ノ議官ハ五年續キテ平常事務議官ノ名表ニ記名シタル時ハ議官ノ終身委任證書ヲ之ニ授クヘシ本人平常事務議官ノ名表或ハ非常事務議官ノ名表ヨリ名ヲ消サル、時ニ議官ノ年給ノ三分一ノミヲ受クヘシ終身議官ハ施體加辱ノ刑ヲ生スヘキ裁判ヲ大審院ヨリ言渡サル、場合ノ外ハ已ノ位及已ノ權ヲ失フ可ラス

○佛蘭西一千八百十四年

第廿四條　上院ハ立法權ノ施行ニ必ス參加スヘキ者ナリ

第廿五條　上院ノ召集ハ國王民選議院ヲ召集スル時ニ之ヲ爲スヘシ即チ兩院ハ同時ニ會議ヲ開キ又同時ニ會議ヲ閉ツ可シ

第廿六條　上院若シ國王ノ命ヲ受ケスシテ民選議院ノ集會ノ爲メ

定メタル時間ノ外集會スルトキハ此集會ヲ不法トシ又其決議シタル件々モ當然廢物トス

第廿七條　上院議官ノ委任ハ國王ノ獨權ニ歸ス其議官ハ定員ナシ又國王ニ於テ隨意ニ議官ノ等級ヲ變改シ終身ノ任官ヲナシ或ハ世襲ノ任官ヲナスヲ得ヘシ

第二十八條　議官タル者ハ二十五歳以上ナラサレハ上院ニ出席スル能ハス且三十歳以上ナラザレハ決議ノ權ヲ有スル能ハス

第廿九條　上院ニ上席スヘキ者ハ佛蘭西國ノ幹事ナリ「シヤンスリエ」不在ノ時ハ國王ヨリ其代理ニ任シタル議官一人之ニ上席スヘシ

第三十條　王族及王子ハ其門閥ニヨリ當然議官タル者トス且上席人ノ次席ニ坐スヘシ然レトモ滿二十五歳ニ至リシ上ノミ決議ノ權ヲ受クヘシ

第三十一條　王子ハ國王ヨリ出シタル處ノ出勤ノ命令ヲ受ケサレハ上院ヘ出席ス可ラス但國王ハ上院ノ集會スル毎ハ別々ニ出シタル命令ヲ國書ニ記シ其國書ヲ上院ヘ送ルヘシ若シ王子ハ其命令ヲ待スシテ上院ニ出席スルトキハ其面前ニ上院ヨリ爲シタル決議ヲ廢物トス

第三十二條　上院ノ孰レノ決議モ内密ノ會議ニ之ヲ爲スヘシ

第三十三條　上院ハ國ニ對シテ犯シタル犯逆ノ罪及法律ニ記シタル國家ノ安寧ニ付テノ罪ヲ裁判スヘキ者ナリ

第三十四條　凡「ペール」ハ上院ノ決定ニ由ルニアラサレハ之ヲ捕フ可ラス又重罪ノ訴ニ付テハ上院ノミ「ペール」タル者ヲ裁判スヘシ

○佛蘭西 一千八百十五年

第三條　第一等ノ議院上院ト謂フヘキ者ニシテ其議員ノ位職ハ繼嗣スヘキ者トス

第四條　上院ノ議員ハ定員ナシ議員ノ養子ハ議員ノ位職ヲ繼嗣ス可カラス○上院ノ議員タル者滿二十一歳ニ至リ上院ニ出座スルヲ得ヘキト雖ヒ滿二十五歳ニ至リシ上ナラサレハ決議ノ權ヲ有スル能ハス

第五條　國家ノ上院議長ナルヘシ（アルシヤンソリエ）尤モ千八百四年五月十八日元老院ノ建國決定書ニ定メタル場合ニ於テハ皇帝ヨリ別段ニ撰任シタル同院ノ議員一人上院ニ上席ス可シ

第六條　皇族タル者ハ其門閥ニヨリ且其繼嗣ノ順席ニ從ヒ當然上院ノ議員ナルヘキ者トス皇族ハ議長ニ次席スヘキ者ニシテ滿十八歳ニ至リ座席スルヲ得ヘキト雖ヒ滿二十歳ニ至リシ上ナラサレハ決議ノ權ヲ有ス可ラス

○佛蘭西 一千八百三十年

第二十條　上院ハ立法權ノ施行ニ必ス參加ス可キ者ナリ

第二十一條　上院ノ召集ハ國王下院ヲ召集スル時ニ之ヲ爲ス可シ即チ兩院ハ同時ニ會議ヲ開キ又同時ニ會議ヲ閉ツヘシ

第二十二條　上院如シ下院ノ集會ノ爲メ定メタル時間ノ外集會スル時ハ此集會ヲ不法ナル者トシ又其決議シタル件々モ當然効無カル可キ者トス然レヒ上院ノ大審院トシテ爲ス所ノ集會ハ格別ニシテ上院右ノ集會中裁判事務ニノミ管スヘシ

第二十三條　上院議員ノ委任ハ國王ノ獨權ニ歸ス上院ノ議員ハ定

員ナシ又國王ニ於テ隨意ニ議員ノ等級ヲ變改シ之ヲ終身ニ任シ或ハ世襲ニ任スルヲ得ヘシ

第廿四條　議官タル者ハ二十五歳以上ナラサレハ上院ニ出席スル能ハス且三十歳以上ナラサレバ決議ノ權ナカルヘシ

第廿五條　上院ニ上席スヘキ者ハ佛蘭西國ノ幹事ナリ「シヤンスリエ」不在ノ時ハ國王ヨリ任シタル議官一人之ニ上席スヘシ

第廿六條　王子ハ其門閥ニヨリ當然議官タル者トス且上院ニテ上席八ノ次席ニ坐スヘシ

第廿八條　上院ハ國ニ對シテ犯シタル叛逆ノ罪及法律ニ國家ノ安寧ニ付テノ罪トシテ記シタル處ノ罪ヲ裁判ス

第廿九條　凡議官タル者ハ上院ノ決定ニ由ルニアラサレハ之ヲ捕ユ刑ヲス又重罪ノ事ニ付テハ上院ノミ「ペール」タル者ヲ裁判スヘシ

○佛蘭西一千八百四十八年

第七十一條　國議院ヲ設クヘシ共和政治統領ノ副役ハ當然國議院ノ議長ナルヘシ

第七十二條　國議院ノ議官ハ六年限リ任スヘキ者ニシテ民選議院之ヲ撰任スルナリ尚民選議院ノ改撰之レ有リ次第新ノ民選議院ノ集會セシ日ヨリ二ケ月間ニ國議院ノ議官ノ半ヲモ改選スヘシ但民選議院ノ内密ノ投票ノ過半ヲ以テ之ヲ爲ス同議官ヲ幾度ニ限ラス之ヲ更ニ撰任スルヲ得ヘシ

第七十三條　民選議院代議者ノ中ヨリ撰任シタル議官アレハ直ニ其代リニ代議者ヲ任スヘシ

第七十四條　凡國議院ノ官員ハ民選議院ノミ共和政治統領ノ勸告ニヨリ之ヲ免職スルヲ得可シ

第七十五條　國議院ノ査究ヲ必ス受ク可キ所ノ法律ノ議案ニ付テ政府ノ之ニ質問ヲナシ又民選議院ヨリ其發起セントスル法律ノ議案ノ内國議院ニ送ル處ノ議案モ國議院之ヲ商議スルナリ○國議院ハ總テノ施政ノ規則ノ案文ヲ制作シ且其内民選議院ヨリ已ノ決議ニ任セタル處ノ施政規則ヲ自カラ之ヲ確定スルナリ尚國議院ハ公社ニ付テ法律ヨリ已ニ任シタル監察並ニ注意ノ權ヲ行フヿナリ但國議院ノ他ノ職務ハ追テ法律ニ於テ之ヲ定ム可シ

○佛蘭西一千八百五十一年十二月二十日及二十一日ノ投票ニ因リ佛蘭西人民ノ路易拿破崙保那巴ニ授ケシ威權ヲ以テ製定シタル憲法

第十三條　宰相ハ國ノ長ニ屬スルノミニシテ政府ノ所爲中自已ニ管スル事務ニ付キ各自ニ其責ニ任シ相連帶シテ責ニ任スルヿナク且其罪ハ元老院ノ外之ヲ告訴ス可カラス

第十八條　(千八百五十二年十二月廿五日廢ス)新タニ共和政治ノ大統領ヲ選ムニ至ル迄ハ元老院ノ長在職宰相ノ資助ヲ得テ國ヲ統制シ其在職宰相ハ政府ノ商議官ト爲リ可否ヲ述フル者ノ多寡ニ從ヒ諸務ヲ決議ス可シ

第十九條　(千八百五十二年十二月廿五日廢ス)元老院ノ議員ハ百五十名ニ過ク可カラス但シ最初ノ一年ハ之ヲ八十名ト定ム

第二十條　元老院ハ

第一　「カルヂナール」最モ高貴ノ僧官「マレシヤル」陸軍ノ最モ高貴ノ將帥「アミラル」

海軍ノ最モ高貴ノ將帥

第二　共和政治ノ大統領元老院ノ員ニ選舉スルヿヲ適當ナリト思量スル士民

此等ノ者ヨリ集成ス

第二十一條　元老ノ員ハ畢生間其職ニ居ラシメ之ヲ轉任セシム可カラス

第二十二條　（千八百五十二年十二月廿五日廢ス）元老院ノ職ハ官俸ナク之ヲ行フ可シ然ルニ共和政治ノ大統領ヨリ其功績ト其家產トニ准シ一年三萬「フランク」ニ過キサル一身ノ俸給ヲ與フルヿヲ得可シ

第二十六條　元老院ハ

第一　憲法國ノ法敎、人倫ノ道、法敎ノ自由、國民自由ノ權、法律上ニ於テ國民平等ノ權、財產所有ノ權ヲ侵ス可カラサル規則裁判役ヲ轉任ス可カラサルノ旨趣ニ背キ又ハ其害トナル可キ法律

第二　佛蘭西領地ノ防禦ノ害トナル可キ法律

此等ノ法律ヲ布令スルヿヲ拒止ス可シ

第二十七條　元老院ハ其決定書ヲ以テ左ノ條件ヲ規定ス

第一　佛蘭西藩屬ノ地及ヒ「アルゼリー」亞非利加洲ニアルノ憲法

第二　憲法中未タ制定ヲ經スシテ之ヲ施行スルニ必要ナル條件

第三　憲法中二樣ノ意ニ解ス可キ箇條ノ眞正ノ文義

第二十九條　元老院ハ政府ヨリ憲法ニ背反シタルト爲シ指令シタ

ル法律及士民ヨリ願書ヲ以テ憲法ニ背反シタルト爲シ建言セシ法律ヲ或ハ保存シ或ハ廢止ス

第三十條　元老院ハ共和政治ノ大統領ニ呈示シタル啓告書ヲ以テ國ノ大益トナル可キ法律草案ノ基礎ヲ制定スルヿヲ得可シ

第三十一條　又元老院ハ憲法ヲ更改スルノ申立ヲ爲スヿヲ得可シ若シ行政官之ヲ採用スル時ハ元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ制定ス可シ

第三十二條　然モ十二月二日ノ布令書ヲ以テ制定シ佛蘭西國民ノ許可ヲ得タル憲法ノ大基礎ヲ更改セシト欲スル時ハ佛蘭西全國人民ノ投票ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

第三十三條　議院ヲ解散シテ更ニ復タ集會ヲ爲スニ至ル迄ハ元老院共和政治ノ大統領ノ申告ニ從テ急速ニ規則ヲ立テ政務ヲ執行フニ必要ナル諸件ヲ備フ可シ

第四十五條　人民願書ヲ呈セントスル時ハ必ス之ヲ元老院ニ出ス可シ之ヲ議院ニ出ス可カラス

○佛蘭西一千八百五十二年一月十四日ノ憲法ヲ釋明シ且之レヲ更改スル○千八百五十二年十二月二十五日ヨリ三十一日ニ至ル元老院決定書

第十六條　佛蘭西ノ皇族滿十八歲ノ齡ニ至リシ時ハ元老院及ヒ參議院ノ員ニ列ス可シ

然ルニ皇帝ノ允許ヲ得タル上ニアラサレハ元老院及參議院ニ出席スヘカラス

第十條　皇帝ノ親ク任ス可キ元老ノ員ハ百五十名ニ過ク可カラス

第十一條　元老ノ職ニ即キタル者ハ畢生間三萬「フランク」ノ年給ヲ受クヘシ

○英吉利

上下兩局ニ分チタル方今議員ノ体裁ハ「イドワード」二世ノ時ヨリ肇リ共和政治ノ間ヲ除クノ外常ニ上下兩院ノ議會ヲ建ルヲ以テ憲法ノ基本トセリ上院ノ議員左ノ權ヲ以テ其會ニ列ナルヲ得ヘシ

第一　世襲ノ權

第二　功勞ニ由テ王ヨリ賜フ貴爵ノ權

第三　役權英僧正ノ如シ

第四　生涯選舉ノ權愛貴族ノ如シ

第五　一會中選舉ノ權蘇貴族ノ如シ

右ハ貴族ヲ議院ニ出スヲ促スヿ全ク王ノ意ニ出タリ又「カムデン」氏ノ說ニ從ヘハ「ウエシヤム」ノ戰後別ニ許シヲ受ケサレハ貴族議院ニ出ルヿヲ禁セリ然レトモ世襲ノ貴族ハ必ス上院ニ出ルノ權アリト主張セシハ一朝ノ事ニ非ラス祖先召命ニ依テ議員ニ列リシ證ヲ表スル者ハ世襲貴族トシテ會ニ出ルヲ得王命ヲ下シテ新タニ貴族ヲ立テ其定例ニ從ヒ公命ヲ出シテ貴族ヲ集メ其事ノ宜シキヲ議論シ又召命ヲ以テ貴族ノ出會ヲ促カシ其促ヲ受タル人上院ニ出ルヤ否ニ係ラス貴族ノ權ヲ得ヘシ又貴族上院ニ出ルノ許シヲ受クヘキ人ナルヤ否ニツキ疑起ルトキハ內國事務宰相等ニ由リ其召命ヲ王ニ乞ヒ刑法總裁其願ヒヲ扶ケ王若シ之ヲ免ルスノ意アラハ通常其事ニ從ヘトモ若シ事疑ハシキトキハ王之ヲ上院ノ議ニ下シ其院ニテハ特務ノ人ヲ選ヒ之ヲ議シ書ニ由テ其意ヲ述ヘシム可シ而シテ世襲貴族ハ上

院ノ定則ニ從ヒ他ノ手數ヲ經ス其席ヲ取ル可シ然レトモ樞密官其議ヲ起シ一千八百六十八年三月三十一日始メテ其法ヲ立テ上院ノ議員名代ヲ以テ「ヴチート」ヲ出スノ權ヲ別ニ新ニ貴族ヲ立ルヿハ王ノ特權ニシテ聊限制ス可カラス當政府其特權ヲ用ヒテ上院ノ議員ヲ滿タセリ○「アーン」治世即チ英蘇聯合ノ時立テタル定法第五條ノ約ニ依リ其頃蘇格蘭(スコツトランド)ニ在リシ貴族ハ其名代貴族撰舉ノ法ヲ限制シ王新ニ蘇貴爵(スコツチシ)ヲ立ルノ權ナク又其實王家ノ枝族ニアラサレハ嘗テ其ノ權ヲ用ヒシコトナシ但既ニ絶ヘタル貴族ヲ興シ或ハ沒收シタル貴爵ヲ復スル等ハ此例ニ非ス「ジヨージ」三世治世即チ英愛合併第三十九條ノ約ニ王冠ニ愛貴族(アイリシ)ヲ立ルノ權ヲ限リ其頃愛爾蘭ニ在リシ貴族三人絶ユル每ニ一人ヲ立ルコトヲ定メタリ然レトモ其ノ貴族百ニ減少スルトキハ一員絶ユル每ニ一員ヲ立テ其ノ數ヲ滿タスヲ得

ヘシ○一千八百七十一年ノ會議ニ於テ上院ノ議員四百七十六人アリ其ノ內四人ハ王統ノ貴族ニシテ二人ハ大僧正(アーチビシヨツプ)二十人ハ公(ライユーク)十九人ハ侯(マルクイ)百九人ハ伯(アール)二十三人ハ子(ヴイコーント)二十四人ハ僧正(ビシヨツプ)二百三十一人ハ男(バロン)十六人ハ蘇名代(スコツチン)貴族及ヒ二十八人ハ愛名代(アイリシ)貴族ナリ此貴族ノ員中幼弱ナル者アリ二十一歲以下ヲ指ス又世襲ノ權ト役權トヲ兼テ其席ニ出ル者アリ而メ一千八百三十年上院議員ノ數ハ四百九十三人ニメ一千八百四十年ハ四百五十七人一千八百五十年ハ四百四十八人一千八百六十年ハ四百五十八人一千八百七十年ハ四百七十三人アリシ此世襲貴族三分ノ二ハ當世百年ヲ以テ數フ於テ立テタルモノナリ其內最古貴族ハ一千二百七十年ノ頃ヨリ始リ其四ハ一千三百年ニ起リ其七ハ一千四百年ナリ一千五百年間ノ貴族中ニテ今十二人存シ一千六百年間ニテ三十五人一千七百年間ニテ九十五人及ヒ當世ニテ二百

三十五人アリ○一千八百三十年ヨリ一千八百七十一年マテ四十一年ノ間ニ百七十八人ノ新員立テリ則チ三十四人ハ「アールグレー」三十五人ハ「ロールドメールブチールン」十一人ハ「サーロベルトピール」二十四人ハ「アールロッセル」三十三人ハ「ワイコーンパームストン」三十五人ハ「アールチフテルビー」四人ハ「ミストルデイゼリー」及十八人ハ「ミストルグラッドストーン」執政ノ時ナリ

○獨逸

第六條　上院（ハンデスラート）ハ聯邦各國ノ代議士ヲ以テ編成ス而シテ聯邦各國ノ有スヘキ投言ノ効力ノ比例ハ左ノ如シ乃チ「ハンノウヴコル」「クールヘッセン」「ホルスタイン」「ナッサウ」「フランクフオルト」ノ昔時投言ナセシモノヲ加ヘテ「フロイス」ハ十七「バビエール」ハ六「サックス」ハ四「ウイルテンベルグ」ハ四「バーデン」ハ三「ヘッセン」ハ三「メクレムブルグシュエリーン」ハ二「サックスウアイマル」「メクレンブルグ、ストレリツ」「チルデンブルグ」ハ各一「ブロンスウイッグ」ハ二「サックス、マイニンゲン」「サックス、アルテンブルグ」「サックス、コーブルグゴーダ」「アヌハルト」「シウアルツブルグ、ルドルスタット」「シウアルツブールク、ゾンデルスハウセン」「ウアルデック」「ロイスエルテレリニエ」「ロイスユンゲレリニエ」「シヤウムブルクリツペ」「リツペ」「リウペック」「ブレーメン」「ハンブルグ」ハ各一ノ投言ヲ有シ通計五十八ノ投言アリ（原注）一千八百七十一年ニ獨逸帝國ニ屬シタル佛國ノ「アルサス」「ロレーヌ」ノ二州ハ合同シテ代議士一員ヲ上院ニ出ス○聯邦各國ハ上院ニ於テ其各國ノ有スル投言ノ効力ノ比例ニ從テ代議士ヲ上院ニ出スヿヲ得可シ然レ𪜈聯邦各國ノ有スヘキ投言ノ總數ハ必ス合同シテ出ス可キ者トス

第七條　上院ニ於テ決定ス可キ諸件ハ左ノ如シ

第一　下院ニ於テ起草スヘキ議案及下院ニ於テ爲シタル決定ノ事

第二　帝國ノ法律ニ於テ其法律ヲ施行スルニ付格別ナル定規アルニ非レハ帝國法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル行政ノ規則及行政ノ設立政府ノ各部ノ爲ニ設立セル官廳ヲ謂フ事

第三　帝國法律ヲ施行スルニ付或ハ前項ニ掲載シタル規則及設立ニ付テ現ハルヽ所ノ不全備ノ事

聯邦各國ハ種々ノ意見ヲ具シ上院ニ提出スルノ權ヲ有ス而シテ議長ハ必ス其事件ヲ議院ノ公議ニ付ス可シ○上院ニ於テ決定ノ法式ハ此國憲ノ第五條及第三十七條及第七十八條ニ掲載シタルノ外ハ通常過半數ノ法式ヲ用ユ出頭セサル投言或ハ投言ヲ爲サヽル者ハ之ヲ算入スルヿヲ得ス如シ投言ノ數ノ均分スル時ハ議長ノ投言ヲ以テ之ヲ決定ス○此國憲ノ條規ニ據リ帝國一般ニ干渉セサル事件ヲ決定スル時ハ該事件ニ關係シタル聯邦各國ノ投言ノミヲ算入スヘシ

第八條　上院ニ於テ其議員ヨリ設ク可キ常備委員ハ左ノ如シ

第一　陸軍及各所ノ城堡ニ管スル委員

第二　海軍ニ管スル委員

第三　輸出入稅及租稅ニ管スル委員

第四　貿易及交際ニ管スル委員

第五　鐵道郵便電信ニ管スル委員

第六　司法ニ關スル委員

第七　國計ニ關スル委員

右ノ各委員ニ於テハ會長ノ外少ナクモ聯邦四ケ國ノ代議士ヲ

用ユルヲ要ス而シテ該委員ヲ用ユル所ノ各國ハ只一ノ投言ヲ有シ陸軍及城堡ニ關スル委員ニ於テハ「バビエール」ハ常ニ一員ノ席ヲ保ツ可シ自餘ノ議員ハ皇帝之ヲ任命シ海軍ニ關スル委員トナル可キ議員モ亦皇帝之ヲ任命シ其他總テ委員トナル可キ議員ハ上院ニ於テ之ヲ撰擧ス右一切ノ委員ノ編制ハ上院ノ各集會ニ於テ毎歳之ヲ更改ス可シ而シテ其罷メラレタル委員ハ更ニ撰擧セラルヽヲ得可シ○右ノ外上院ニ於テ「バビエール」「サクス」「ウイルテンベルグ」ノ三箇國ヨリ一員宛ノ代議士ト上院ニテ他ノ聯邦各國ヨリ毎歳撰擧ス可キ二名ノ代議士トニテ外務ニ關スル委員ヲ編制ス可シ該委員ニ付テハ「バビエール」常ニ會長ノ位ヲ有ス○右ノ總テ委員ノ職務ニ關スル必要ノ官吏ヲ設置ス可シ

第九條　上院ノ各議員ハ下院ニ參入スルノ權ヲ有ス而シテ其ノ求ニ依リ已ノ政府ノ意見ヲ表セントスル時ハ下院ハ必ス其意見ヲ聽ク可シ此場合ニ於テハ上院ノ過半數示タ其意見ヲ承諾セサル時モ亦同一ナル者トス凡議員ハ同時ニ上院下院ノ議員ヲ兼ヌルヲヲ得ス

第十條　上院ノ議員ニ普通ノ交際保護ヲ授クルヲハ皇帝ノ義務ナリ交際保護トハ議員タル者其本國ヨリ首府(リフロマテック、フロテックシュンス)ニ往キ或ハ首府ヨリ其ノ本國ニ歸ル途中ニ於テ自由ノ往來ヲ爲スヘキヲ謂フ

○普魯西

第六十五條至第六十八條（千八百五十八年制ル代フルニ下文一條ヲ以テス）上院ハ、王命ニ由テ建立ス、而メ其王命ハ、兩院諧同セル法章ニ由ルニ非レハ、脩改スルヲヲ得ス、兩院合同ノ力ニ非レハ脩改ノ權ヲ有セス、上院建立ノ王

命ハ特ニ重權ヲ有スルナリ國王命ヲ發シ上院ヲ建立シ又上院ノ議員ヲ任ス、故ニ上院ハ、王ノ輔翼タリ上院ハ、國王ニ終身ヲ以テ任命シタル議員及世繼ノ議員ヲ以テ構成ス千八百五十四年十月十二日ノ令ニ據ルニ上院ノ議員タル者ハ、第一ニ王族、第二ニ貴族、第三ニ王ヨリ命シタル終身議員トス、終身議員トハ、其生涯ヲ期ノ命シタル者、○上院議員ハ定數ナシ現ニ議員二百四十三員ヲ得、其中、六ノ大學校、三十六ノ都府及貴族ノ大姓及豪族ノ撰舉會ヨリ名ヲ薦ムル者、凡百五人皇子及舊君族及高官ニシテ議列タルノ固有權アル者四十八人其它ハ王ヨリ撰任シタル世繼若クハ終身ノ議ナリ「ヒレブランン」氏千八百六十七年ノ著ニ據ル)○上院議員ハ俸給及償餉ナシ

○澳地利

第二篇第二條　成年ノ皇族ハ門地ニ依リテ上院議會ノ員ニ入ル

第三條　本國ノ貴族ニシテ所有ニ富ミ皇帝ヨリ上院世傳議官ノ稱ヲ授ケタル成年ノ家主ハ世傳ノ議官タリ

第四條　凡帝國貴族ノ稱ヲ有スル大教長（アルシユエクエツユ）教長ハ高僧ノ官ニ在ルノ故ヲ以テ上院ノ議官タリ

第五條　皇帝ハ國事、教門、文學、若クハ技術ニ勉勵シテ世ニ其名ヲ知ラレタル扳群ノ秀士ヲ上院ノ終身議官ニ任スルノ權ヲ有ス

第九條　皇帝ハ會期ノ間議官中ヨリ上院ノ議長及ヒ副議長ヲ任命ス

○米利堅

第一條第七節一　上院ノ議員ハ各州ノ議政官ヨリ二名ヲ撰舉シ六年ヲ以テ定限トシ議員各「ウナート」願ヲ述ヘルト云フ義ニテ人ヲ其見込ヲ言ヲ出スノ權アリ官ニ舉ケ或ハ法ヲ立ルニ當リフナリ

第七節二　議員始メテ會スルニ當テ先ツ其數ヲ三部ニ分チ第一部

ノ議員ハ二年第二部ノ議員ハ四年第三部ノ議員ハ六年ニシテ退キ議員三分ノ一ハ二年毎ニ撰舉ヲ受ケ若シ議員各州ノ議政官閉院中ニ其職ヲ辭シ或ハ他ノ故ニ因テ官ヲ欠ク時ハ其州ノ議政官開院ノ後其員充迄其行政官ヨリ假リニ之ヲ撰フヘシ

第七節三　齡未タ三十ニ至ラス且合衆國ノ戶籍ニ入リ未タ九年ヲ經サル者及其撰擧ニ當リシ時其州ニ住居セサル者ハ敢テ上院ノ議員ト爲ス可カラス

第七節四　合衆國ノ副統領ハ上院ノ議長タルヘシト雖ヒ「ウチート」均シク分カルヽコアラサレハ之ヲ出スノ權ナシ

第七節五　議員其他ノ官吏ヲ撰フ可ク又副統領其席ヲ欠キ或ハ合衆國大統領ニ代ル時ハ假リニ其議長ヲ撰ムヘシ

○白耳義

第五十三條　上院ノ議院ハ各州ノ民口ニ比例シ代議士院員ヲ撰フ所ノ國民ルニ別ニ約束アヲ非ラス之ヲ撰フ

第五十四條　上院議員ハ下院ノ數ノ半ニ居ル計六十二人

第五十五條　上院議員ハ八年一期トス撰擧法ニ定メタル次序ニ從ヒ毎四年其半ヲ更撰ス○解散ノ時ニハ全員ヲ解散ス全員ヲ更撰ス

第五十六條　上院議員ノ撰ニ當ル爲ニ

第一　生レテ白耳義人タルヿ或ハ大歸化ノ許ヲ受ケタル事

第二　政權及私權ヲ享有スル事

第三　白耳義國ニ住ム事

第四　歲四十以上ナル事

第五　白耳義國ニ於テ直稅千「フロラン」以上ヲ納ル、事産業稅亦其中ニ在

リヲ要ス但直稅千「フロラン」ヲ納ルヽ所ノ民人口六千ニシテ一員ヲ舉ルノ比例ニ充ルニ足ラサルノ州ニ於テハ降テ其下ニ取ル

第五十七條　上院議員ハ俸給及償給ヲ受ルヿナシ

第五十八條　太子十八歲ニ至ル片ハ上院議員タルヿノ權ヲ有ス○太子ハ二十五歲ニ至ラサレハ公評ノ權ヲ有セス唯院ニ臨ムノミ公評可否ノ數ニ預ラス

第五十九條　代議士院開會ノ時ニ非スシテ集會スルノ上院ハ固ヨリ其効シナシ會ヲ開カサルト同シ

○西班牙

第十四條　元老議官ハ定員ナシ之ヲ命スルハ國王ノ權ニ屬ス

第十五條　齡三十歲ニ滿チ且左ニ開列スル部類ニ入ル西班牙人ニ限リ元老議官タルヿヲ得

第一　立法議院代議士院ヲ云ノ議長

第二　國會ニ撰ハレタルヿ三回ニ及ヘル元老議官若クハ代議士

第三「ミニストル」執政官

第四「コンセイユテタート」參議官

第五「アルシユウエーク」大敎長

第六「エヴエーク」敎長

第七　西班牙國ノ貴族

第八　陸海軍ノ「カピテーヌ、ヂエネラル」大將

第九　陸海軍ノ「リウトナンヂエネラル」中將

第十 「アンバッサトウル」特命全權大使

第十一 「ミニストル、プレニポタンシエール」全權公使

第十二 上等裁判所ノ議長

第十三 上等裁判所ニ隸屬スル裁判官及檢職ノ官吏

第一項ヨリ第十三項マテノ部類ニ入ル者ハ仍ホ其私有財産若クハ裁判ニ由ルノ外剝奪スルヿヲ得サル官俸若クハ老功兵恩贈金或ハ退老金ヨリ生スル三萬「レオー」貨幣ノ名ノ歳入アルヿヲ證明スヘシ

第十四 「カスチーユ」ノ貴族ニシテ歳入六萬「レオー」アル者

第十五 少クトモ一歳前ヨリ直税八千「レオー」ヲ納レ且前キニ元老議官代議士、州議員及人口三萬アル都府ノ「アルガド」各都府ニ在テ裁判ヲ或ハ州會(ザヤント)若クハ商法裁判所ノ議長ニ任セシ者掌ル

右元老議官ニ任スルタメノ要欵ハ法律ニ依リ修正スルヿヲ得

第十六條 元老議官ヲ命スルハ特別ノ王勅ヲ以テス但該王勅ニハ前條ニ準シ議官ニ任スル憑據トスル本人ノ官爵ヲ記載スヘシ

第十七條 元老議官ハ終身在職スル者トス

第十八條 王子及世嗣ノ子ハ齡二十五歳ニ至リテ元老議官ニ任ス

第十九條 元老院ハ立法權ヲ受用スルノ外左ノ三件ヲ掌ル

第一 代議士院ヨリ論告セラレタル執政官ヲ裁判スル事

第二 國王ノ身躰若クハ權威ニ對シ又ハ國安ニ對スル重罪犯ヲ法律ニ定メタル所ニ循ヒ裁判スル事

第三 法律ニ定メタル時機ニ際シ及之ニ定メタル規程ニ循ヒ元老議官ヲ裁判スル事

第三十條 元老院ノ議長副議長ハ國王之ヲ該院議官ヨリ撰拔シ議

員ノ任期間代議士員ノ任期第二十四條ニ見ユ其職ニ任ス書記官ハ元老院自ラ之ヲ撰ム

增補第三條　第一撰任ノ元老議官ハ百四十名ヲ定限トス既ニ第一ノ撰任終レハ國王ハ國會ノ會シタル後ニ非サレハ更ニ元老議官ヲ撰ムヿヲ得ス

○瑞士

第六十一條　國議會ハ、全國ノ人口二萬ニ付一員ノ比例ヲ以テ、公選シタル瑞士國民ノ代議士ヲ以テ成ル但一萬口以上ノ零數ハ二萬ト見做シテ算計ス○每列邦及分離シタル列邦ニ於テハ「ドミーカ」ソトン邦每半ニ少クモ代議士各一員ヲ選擧ス

第六十二條　國議會ノ選擧ハ直接トス國民自ラ直ニ議員ヲ選擧ス該選擧ハ聯邦選擧會ニ於テ之ヲ行フ但此選擧會ハ各列邦人民ノ局部ヲ以テ搆成スルヿヲ得ス

第六十三條　年齡滿廿歲ニシテ且其本住居トスル所ノ列邦ノ法律ニ因リ國民權ヲ剝奪セラレサル瑞士國人ハ皆投票ノ權ヲ有ス

第六十四條　投票ノ權ヲ有スル瑞士國俗籍ノ者僧徒ヲ除ク ハ皆國議會ノ員ニ選マルヽヿヲ得可シ外國ヨリ歸化シテ瑞士國人トナリタル者ハ其國民權ヲ有スル時ヨリ五年ノ後ニ非レハ議員ニ選ハルヽヿヲ得ス

第六十五條　國議會ハ三年每ニ選擧シテ其全員ヲ更迭ス

第六十六條　列邦議會ノ代議士聯邦行政會ノ員及ヒ行政會ヨリ命セラレタル官吏ハ國議會ノ議員ニ兼任スルヿヲ得ス

第六十七條　國議會ハ通常會期若クハ臨時會期ノ間其議員中ヨリ

議長副議長各々一名ヲ選ブ○通常會期ノ間議長ニ任セラレタル議員ハ次回ノ通常會期ニ於テ議長若クハ副議長ノ職ヲ再勤スルヲ得ス○同一議員ニヨリ二回ノ通常會期ノ間引續キテ副議長ニ任スルヲ得ス○論議兩立スル時ハ議長ノ說ヲ以テ其取捨ヲ決ス役員選舉第七十四條第三項參看ニ於テハ議長モ亦他ノ議員ト均シク投票ス可シ

第六十八條　國議會ノ議員ハ聯邦金庫ヨリ償給ヲ受ク

○葡萄牙

第三十九條　貴族院ハ國王ノ撰命シタル終身官ノ議員ト世傳ノ議員トヲ以テ成ル定員ナシ

第四十條　儲君及王子ハ當然ノ貴族議員ナリ故ニ滿十五歲ニ至レハ貴族院ニ列席スルヲ得

第四十一條　左ニ擧クル者ヲ貴族院ノ特任トス

第一　王族、執政官、參議官、貴族院ノ議員ノ犯シタル諸罪事及代議士院ノ會期間ニ犯シタル罪事ヲ審斷スル事

第二　執政官及參議官ノ責任ニ關シ審斷ヲ行フ事

第三　假攝政官自ラ國會ヲ召サヽル時ハ國王殂スルニ由リ眞ノ攝政官ヲ構制スルカ爲ニ國會ヲ徵聚スル事

第四十二條　代議士院ヨリ劾告スヘカラサル重罪裁判ニ於テハ檢事劾告ヲ行フ代議士院ノ權任ニ在ラサル者ハ檢事代リテ貴族院ニ劾告ス

第四十三條　貴族院ノ會期ハ代議士院ト終始ノ時限ヲ同フス

第四十四條　建國法ニ定メタル場合ヲ除クノ外凡代議士ノ會期外ニ於テスル貴族院ノ集會ハ決ノ禁スル所ニシテ其効ナシトス

第五十一條　貴族院ニ於テ代議士院ノ許認スル法律議案ヲ全ク嘉納セスト雖モ之ヲ改正シ或ハ之ヲ增補スル時ハ該院ヨリ左ノ式文ヲ添テ原議案ヲ寄回スヘシ○貴族院ハ別冊ノ改正及增補ヲ附シテ議案ヲ代議士院ニ送回ス且斯ノ如クノ後國王ニ其制可ヲ奏請スルヲ欲スヘシト酌量ス

第五十二條　貴族院ハ論議スルノ後其起議政府起議ニシテ代議士院認可シタル議案若クハ議案代議士院自ラ起章シタル議案ヲ嘉納ス可カラサルヿヲ審定スルニ當リ左ノ詞ニ於テ其旨ヲ代議士院ニ陳スヘシ○貴族院ハ諧合スルヲ得サル某ノ起議ヲ代議士院ニ寄回ス

第百七條　參議院ハ國王ノ撰ム所ニシテ終身官ニ任スル僚員ヲ以テ成ル

第百八條　外國人ハ其歸化スル者ト雖モ參議官ニ拜スルヿヲ得ス

第百九條　參議官ハ職ニ就クノ前國王ニ向ヒ羅馬正教ヲ篤信シ建國法并ニ法律ヲ遵守シ國王ニ忠誠ヲ盡シ及國益ヲ專思シ誠意以テ國王ヲ啓沃スルヿヲ誓フヘシ

第百十條　參議官ハ總テ重要事件并ニ施政ノ總例規就中宣戰講和外國トノ契約及凡國王七十四條ニ揭クル節制權ニ係ル職務ヲ自ラ執行セントスル時機ニ於テ之ニ參與スヘシ但第七十四條第五項ハ之ヲ除ク

第百十一條　參議官ハ法律及國益ニ悖リテ奏聞スル所ノ意見若クハ詭詐明白ナル意見ノ爲メニハ其責ニ任ス

第百十二條　儲君ハ滿十八歲ニ至テ參議院ニ參入スヘキヿ勿論ナリ其他ノ王子ハ國王ノ撰命ニ因ルノ外該院ニ參スヘカラス

○荷蘭

第七十一條　參議院ノ搆制權限ハ法律ヲ以テ定ム○國王ハ參議院ニ上席シ該院ノ議院ヲ拜任ス○太子ハ滿十八歳ニ至リ參議院ニ班加シ評議ノ權ヲ有ス（ホアゴンシュルダチーフ）

第七十二條　國王ハ國會ニ下附セントスル起議國會ヨリ國王ニ上奏シタル起議及ヒ凡王國ノ內治歐洲外ニ於ル王國所屬地ノ政治ニ管スル條則ヲ參議院ノ議ニ附ス凡法律及王勅ノ書首ニハ參議院與聞ス」ト書記ス○國王ハ凡自ラ須要ト思量スル一般ノ利益又ハ特殊ノ利益ニ管スル事般ニ於テ參議院ノ意見ヲ問フ」決議ノ權ハ獨リ國王ニ在リ及國王ハ親ラ決議スルコトニ各々之ヲ參議院ニ通示ス

第七十八條　上院ハ議員三十九名ヲ以テ成ル○上院ノ議員ハ邦內ニ於テ直稅ヲ出スヿ最モ多キ者ヨリ選用スヘシ○上院ノ議員ニ撰マルヘキ多ク直稅ヲ納ル、者ノ員數ハ每州人口三千ニ該院ノ議員タルカ爲メ必用トスル他ノ約款ヲ備有シタル國民一員ヲ撰フヲ以テ定制トナス○他ノ約款トハ下院ノ議員タルカ爲メ必要トスル約款ニ同シ○上院ノ議員ハ左ノ比例ニ由リ州會ニ於テ之ヲ選舉ス

北ブラバン	一員
グエルドル	二員
南荷蘭	七員
北荷蘭	六員
ゼーランド	二員
ユトレクト	二員

ブリーズ　三員
オベルツセル　三員
クロコンク　二員
ドラント　一員
ランブール　三員
計三十二員

州ヲ合併シ若クハ分離シタル場合ニ於テハ之ヲ分合セル法律ニ因リ上院ノ議員選舉ノ比例ヲ改正ス

○丁抹

第三十四條　上院議員ノ數ハ六十六名トス内十二名ハ國王ヨリ撰任シ七名ハ「コペヌハーグ」都府ヨリ四十五名ハ市街ヲ包ム所ノ丁抹ノ

州ヨリ一名ハ「ボルヌホルム」島ヨリ一名ハ「フアロエ」島ヨリ撰舉ス

第三十五條　下院議員ノ撰舉權ニ付キ緊要ナル規定ニ適ハサル者ハ直接及間接ニ論ナク又上院議員ノ撰舉ニ與カル「ヲ得ス然レ𪜈住居ノ年限ハ撰舉ヲ行フ前年ヨリシテ本州ニ屬スル市街及郡ニ住居スル者ハ撰舉ノ權ヲ有ス

第三十六條　「コペヌハーグ」ニ於テハ第三十五條參看民口百二十ノ爲ニ一ノ上級選舉人ヲ撰フヿヲ要ス民口六十以上ハ百二十ト同ク視ル又前年ニ於テ租稅ニ關スルニ二千「リグスダレル」貸幣ノ名「リグスダレル」ハ我五十三錢ニ當ル ノ入額アル者ハ亦上級撰舉人ヲ撰フノ權アリ而シテ上級撰舉人相共同シテ「コペヌハーグ」ヨリ上院ニ出ス可キ議員ヲ撰舉ス

第三十七條　各邑ニ於テハ初級撰舉人第三十五條參照共同シテ一邑毎ニ一ノ上級撰舉人ヲ撰ヒ市街ニ於テハ「フレテリツクスボールグ」「フ

レテリツクスヴアルク「マールスタル」「シリケポルク」「コグストール」「アルレスントバイ」以上市街ノ名共同メ邑ヨリ撰フ所ノ半數ノ上級撰舉人ヲ撰フヲ要ス然レ𪜈右ノ人員ノ奇數ニ在ル時ハ一人ヲ舉テ之ヲ補足ス市街ヨリ撰フ所ノ上級撰舉人ノ内半數ハ初級撰舉人ヨリ之ヲ撰ヒ半數ハ初級撰舉人ノ内前年ニ於テ租税ニ關スル一千「リグスダレル」以上ノ入額アル者或ハ合計七十五「リグスダレル」ノ國税及邑税ヲ納ムル者ヨリ之ヲ撰フ可シ市街ニ住居スル初級撰舉人ノ人員ニ應シ上級撰舉人ノ總員ヲ各市街ニ分賦スルヿハ上院ノ撰舉ヲ行フ毎ニ政府ニ於テ之ヲ定ム然レ𪜈各市街ハ必ス二箇ノ等級通常及富有ナルノ一名宛ヲ撰舉ス可キ法式ヲ以テ分賦スルヲ要ス上級撰舉人ノ二箇ノ種類市街及邑里ノ上ニ由テ各州ニ於テ邑ヨリ撰舉シタル人員ト概子同數ナル前半ニ於テ最モ多キ國税及邑税ヲ納メタル初級撰舉人ヲ右ノ種類ニ加入シ而メ是等皆ナ本州ヨリ上院（ランツヂン）ニ出ス可キ議員ヲ撰舉ス

第三十八條　選舉ヲ行フ前年ヨリ本州ニ住居シ下院ノ議員ニ撰舉セラル、ヿヲ得セラル可キ者ハ又上院ノ議院ニ撰舉セラル、ヿヲ得

第三十九條　國王ノ撰任ス可キ上院ノ議員ハ畢生間在職トス該議員ハ曾テ兩院ノ一院ニ撰レクル者ヲ以テ之ニ任ス然レ𪜈該議員ハ職務ヲ辭スルヿヲ得可シ若シ被撰ノ權利ヲ失フ時ハ議員タルヿヲ得ス○上院ノ他ノ議員ハ四ケ年毎ニ半數更撰ノ方式ヲ以テ八年間在職トス○上院ノ議員ハ下院ノ議員ト同一ナル日給ヲ受ク

第四十條　上院議員ノ選舉ハ各地方比例方ニ由テ之ヲ行フ選舉ニ付テノ種々ノ規程ハ法律ニ由テ之ヲ定ム

○伊太利

第三十三條　元老院ハ定員ナシ國王ヨリ終身間選任シタル議員ヨリ成ル元老院ノ議員ハ滿四十歲ニシテ且左ニ開載スル各種ノ內ヨリ選任ス可シ

一「セルセブエク」督「エブエク」副督教教

一下院ノ議長

一三周會間即六年間在職ノ代議員

一「ミニステルデタ」卿國政

一「ミニステルゼタ」卿諸省

一第一等全權公使

一三年間第二等全權公使タル者

一大審院及「シヤムブルテコソト」會計裁判所ノ第一等及第二等ノ上席人

一控訴院ノ第一等上席人

一五年間大審院ノ大代言人及大檢事タル者

一三年間控訴院ノ一課ノ上席人タル者

一五年間控訴院ノ大代言人及代檢事タル者

一海陸軍ノ大將及五年間在官ノ少將

一五年間參議官タル者

一三度參議院ノ一課ノ上席人ニ撰ハレタル參議官

一七年間監察官タル者

一七年間學士會社（アカデミ、ロワイヤル）ニ在ル者

一七年間文部少輔タル者一勳勞アル者及材能德望アル者

一財產或ハ職業ニ因テ三千「リブル」二十錢ニ當ル二「リブル」ハ凡我以

上ノ直稅ヲ納ムル者

第三十四條　王族ハ元老院議員タルノ權ヲ有ス列席ノ座次ハ議長ノ下ニ班ス可シ滿二十歲ニシテ院中ニ參入シ滿二十五歲ニシテ公議ノ權ヲ有ス

第三十五條　元老院ノ議長及副議長ハ國王之ヲ撰任ス○元老院ハ議員ノ中ヨリ書記官ヲ撰任ス

第三十六條　逆罪及國ノ安寧ヲ害スル罪犯アル時又下院ヨリ諸執政ヲ論告シタル時ハ國王ハ元老院ヲ以テ最上等裁判所（ホートクールデジユスチス）ト爲ス右ノ場合ニ於テハ元老院ハ已ニ國政（コールポリチーク）ノ體ノ權ヲ有セス故ニ裁判ニ關セサル事件ヲ執行ス可ラス若シ之ニ背ク時ハ其効ナカル可シ

第三十七條　議員タル者ハ現行罪犯ヲ除クノ外元老院ノ命令ニ由ルニ非サレハ拿捕スルヿヲ得ス元老院ハ議員ヲ告訴シタル者アル時之ヲ裁判スルノ權アリ

第三十八條　王族ノ身上證書（婚姻出産死）ハ元老院ニ送リ元老院ハ其證書ヲ書房中ニ藏ス可シ

○佛蘭西一千七百九十一年

第十九條　立法官タル民選議院ハ永久不易ニシテ且ツ一ナル者ナリ

第二十條　民選議院ハ二年毎ニ新選任ヲ以テ編制ス○二年ノ期ヲ一會トス

第二十一條　前條ノ規則ハ今般設立スヘキ民選議院ニ關スル可ラス依テ議院ノ威權ハ千七百九十三年四月三十日ニ止ムヘシ

第二十二條　民選議院ノ改撰ハ必ス之アルヘシ

第二十三條　民選議院ハ國王之ヲ放解スヘカラス

第二十四條　代議者ノ數ハ全國八十三州ノ爲メ七百四十五人ナリトス已後屬國ノ爲メ代議者ヲ立ル時ハ此數ノ外タルヘシ

第二十五條　代議者ノ全數ヲ八十三州ニ區分スルヿハ土地ノ廣狹人民ノ衆寡直稅ノ多少ニ從テ之ヲ爲スヘシ

第二十六條　前ニ記シタル七百四十五人ノ代議者ノ內二百四十七人ハ土地ノ廣狹ニ從テ委任スヘシ但各州ハ三人ヲ差出シ「セーン」ノ州ハ一人ヲ差出スヘシ

第二十七條　二百四十九人ノ代議者ハ人民ノ衆寡ニ從テ委任スヘシ○國民ノ全數ヲ二百四十九ニ分チ其一部分ヨリ代議者一人ヲ出スヘキ割合ヲ以テ各州ヨリ撰任スヘキ代議者ノ數ヲ定ムヘシ

第二十八條　二百四十九人ノ代議者ハ直稅ノ多少ニ從テ委任スヘシ○國ノ直稅ノ總高ヲ二百四十九ニ分チ其一部分ヲ納ル土地ヨリ代議者一人ヲ出スヘキ割合ヲ以テ各州ヨリ撰任スヘキ代議者ノ數ヲ定ムヘシ

第三十一條　民選議院ハ六年毎ニ傭賃ノ最上額及最下額ヲ定ムヘシ又州長ハ各區ノ爲メ之ヲ定ムヘシ

第三十七條　代議者及預備代議者ハ投票ノ過半ヲ以テ委任シ尤モ其州ノ公權ヲ有スル國民ニ限ルヘシ

第三十九條　左ニ記シタル者ハ已ノ役ト代議者ノ役ノ間ニ於テ其一ヲ專勤スヘシ即チ兼勤スル能ハサルヿナリ○政府ヨリ免職スルヲ得ヘキ行法權ノ官員國帑ノ役人直稅ノ收納役人及取立役不直稅ノ收納及其制度ニ關シ又國有財產ニ關シタル役人又國王近侍ノ文武官其他州政官郡政官邑政官及保國兵ノ長官

第四十條　裁判役ハ代議者ヲ兼勤スヘカラス○裁判役代議者トナルニ於テハ預備裁判役ヲ代員トス又檢事代議者トナルトキハ國王ヨリ其爲メ委任証書ヲ請取ル人ヲ其代員トスヘシ

第四十一條　民選議院ノ議員ハ委任二年ノ期限ヲ終リシ上再任スルヲ得ヘシト雖モ其後一任期ヲ隔テサレハ之ヲ撰任スヘカラス

第四十二條　代議者ハ一州ノ名代人ニアラスシテ全國ノ名代人ナリ因テ撰任セシ州ヨリ代議者ニ別段ノ事ヲ委托スヘカラス

第四十九條　代議者ハ五月第一ノ月曜日ニ以前ノ會議席ノ處ニ集會スヘシ

第五十條　初メハ出席ノ代議者ノ權ヲ見糺サンカ爲メ最モ年ノ長スル者會長トシテ假リニ編制スヘシ

第五十一條　既ニ權ヲ見糺セシ代議者數三百七十三人ニ充ツレハ民選議院ノ名義ヲ以テ編制シ議長副議長及書記役數人ヲ委任シ開院スヘシ

第五十二條　五月中出席ノ代議者ノ數三百七十三人ニ滿タサレハ

議院ハ立法上ノ執レノ所行ヲモナス可ラス欠席ノ代議者遲タトモ十五日内ニ出席スヘキ樣布告ヲ出シ且議院ニ於テ承諾スルノ欠席ノ事故ヲ申出ツル人ノ外ハ出席ヲナサヽル者ニ三千「フラン」ノ罰金ヲ命スルヿヲ得ヘシ

第五十三條　五月ノ三十一日ニ至リテハ出席ノ者ノ數ニ關セス出席代議者ハ民選議院ヲ編制スヘシ

第五十四條　代議者ハ佛蘭西國民ノ名ヲ以テ所謂自由人トシテ生々スル能ハサレハ寧ロ死スヘシトノ誓ヲ俱ニ立ツヘシ其後代議者各左ノ誓ヲ立ツヘシ○千七百八十九年千七百九十年及千七百九十一年ニ開キシ憲法議院ヨリ布告シタル建國法ハ以後力ヲ盡シテ守護スヘシ委任ノ期限中ニ其憲法ニ抵觸スヘキ執レノ事モ勸告或ハ承引スマシキヿ且萬事ニ就テ「國家ト法律ト國王トニ忠義ヲ盡スヘシ

第五十五條　國ノ代議者ハ抑制スヘカラサルモノニシテ其在勤中言ヒシヿ記セシヿ爲セシヿニ就テ代議者ヲ搜索シ訴訟裁判スヘカラス

第五十六條　代議者重罪ヲ行ヒ其犯罪ノ地所ニ於テ發見スルカ或ハ犯罪ノ時間ニ於テ發見スル時ハ之ヲ取押ユヘシ又檢事ヨリ出シタル捕票アルトキハ重罪ノ爲メ取押フルヲ得ヘシト雖ヒ其取押ノ事ヲ速ニ民選議院ヘ申告スヘシ且民選議院ニ於テ其代議者ヲ訟フヘキヲ決定セシ後ニ非レハ其訟ヲ繼ク可ラス

第百一條　毎年民選議院開議ノ節諸卿ハ該省雜費ノ豫算表並ニ前年請取リタル定額金ノ便用ニ付テノ明細書ヲ民選議院ニ差出ス可シ且各該省ノ職務上ニ付テ政事ノ不正ノ事アルニ於テハ之モ

陳述ス可シ

第百三條　民選議院ハ憲法ニヨリ左ノ權及職務ヲ依托ス

第一　法律ヲ勸告シ及布告スル事但國王ハ唯已ノ爲サント欲スルヿニ付民選議院ノ勸考ヲ請フノミヲ得ヘシ

第二　國費ヲ定ムル事

第三　國稅ヲ定ムルヿ及國稅ノ性質金高其續テ收ムヘキ期限幷ニ徵收ノ方法ヲ定ムル事

第四　諸州ノ間ニ直稅ヲ配當スルヿ國家歲入ノ用方ヲ檢査スルヿ及其用法ニ就テ已ニ復命セシムル事

第五　公役ヲ設立シ及廢止スル事

第六　貨幣ノ性質重量紋象及名位ヲ定ムル事

第七　外國ノ兵隊ヲ佛蘭西國領分ニ入ルヿ及外國ノ軍艦ヲ佛

蘭西ノ港ニ入ルヿヲ免除シ或ハ禁制スル事

第八　海陸軍ノ人數及船數ノヿ軍兵ノ各位ノ人數及年給ノヿ入兵及進級ノ規則ノヿ入兵及解隊ノ法式ノヿ軍艦水夫ノ編制ノヿ佛國兵隊及軍艦ヲ佛蘭西ニ用ユルヿ又放解セシ兵士ニ對シテノ處置ノヿ等ヲ年々國王ノ勸告ニ依テ定ムル事

第九　國有財產ノ掌管ノ方法ヲ定メ及國有財產ニ付テ之ヲ手離スヿヲサルトノ原則ヲ廢スル事

第十　諸卿及行法官ノ重役各其責ニ任スヘキヿニ付テ最上等裁判所ヘ訟ル事國ノ安寧又ハ憲法ニ對シ傷害ヲナシ或ハ徒黨ヲナスニ付テ告訴セラレタル者ヲ最上等裁判所ヘ申告スル事

第十一　國ノ爲メ拔群ノ功ヲ顯ハセシ人ニ終身ノ賞牌及他ノ

尊表ヲ與フヘキヿ付テノ法律ヲ定ムル事

第十二　功臣ヲ追慕スル爲メ公然ノ追賞ヲ授クルノ權ハ民選議院ノミ之ヲ有ス

第百五條　民選議院ハ和睦同盟及交易ノ條約ヲ確定スルノ權ヲ有ス故ニ孰レノ條約モ民選議院ノ決定ヲ受ケサレハ執行スヘカラス

第百六條　民選議院ハ其集會ノ所ヲ定メ其會議ヲ隨意ニ續キ爲シ及延會スルノ權ヲ有ス○民選議院休會中國王即位ノ日アレハ直ニ集會スヘシ○民選議院ハ其集會所ノ中及其定メタル構內ニ自ラ其取締ヲ爲シ代議者ヲシテ命ヲ守ラシムルノ權アリト雖ヒ呵責或ハ八日ノ謹愼ヲ言渡スヘカラス○民選議院ハ其安全ノ爲メ且失敬ノヿヲ防禦スル爲メ其集會所在ノ都府ニ屯集スル兵ヲ用ユルヲ得ヘシ

第百八條　民選議院ノ會議ハ公然ニ爲スヘシ且其會議ノ論說ノ調書ヲ上梓スヘシ

第百九條　民選議院ハ孰レノ場合ニ於テモ內會議ヲナスヿヲ得ヘシ○議員五十名以上ノ願アルニ於テハ必ス之ヲ爲スヘシ○內會議ノ節ハ來聽ノ人民退出スヘシ議長其席ヲ退キ副議長其取締ヲ爲スヘシ

第百十條　孰レノ立法權ノ處置モ左ノ法式ヲ用ヒサレハ之ヲ評議シ及布告スヘカラス

第百十一條　法律ノ案文ニ付テハ必ス三過讀ヲナス可キ事ニシテ一過讀ハ八日ノ時間ヲ隔ツヘシ

第百十二條　一過讀每ニ評議スヘシト雖ヒ初讀或ハ再讀ノ後ハ其

評議ヲ延引シ又ハ評議ニ及ハサルヲ申立ルヿヲ得ヘシ○評議ニ及ハサルヲ定ムル時ハ其案文ヲ其集會中ニ再度進達スルヲ得ヘシ○何レノ案文モ再讀ヲ始メサル前ニ之ヲ上梓シ議員ニ配當スヘシ

第百十三條　三過讀ノ後議長必ス其案文ヲ議決セシムヘシ且民選議院ハ直ニ一定ノ布令ヲ出スヘキカ或ハ委細ヲ聞糺スマテハ其決定ヲ延引スヘキカヲ定ムヘシ

第百十四條　出席ノ議員二百人以上ナラサレハ事ヲ議決スヘカラス且孰レノ布令モ投票ノ過半ヲ受ケサレハ之ヲナス可ラス

第百十五條　孰レノ案文モ三過讀ノ後民選議院之ヲ阻却スルニ於テハ其集會中ニ再度之ヲ進ムヘカラス

第百十八條　民選議院豫シメ某布告ニ付テ至急ナルヿヲ申立ルニ於テハ此布告ノ爲メ右ノ法式ヲ守ルニ及ハス尤モ此場合ニ於テハ其集會中ニ此布告ヲ改正シ或ハ廢止スルヲ得ヘシ但其至急ヲ申立ルノ命令ニハ其事由ヲ詳述シ且一定ノ布告ノ題言ニ此命令ヲ記スヘシ

第百二十五條　民選議院決定ノ左ノ件々ハ國王ノ確定ヲ受ケサルモ法律ト同樣行フヘシ

第一　民選議院ノ編制ニ關スル決定

第二　民選議院館内ノ取締及自ラ定メシ構内ノ取締ノ規則

第三　出席スル議員ノ權ヲ見糺ス事

第四　出席セサル議員ニ出席スヘキヿヲ命スル事

第五　集會ノ期限ヲ過テ未タ集會セサル下會ヲ召集スル事

第六　建國法ニ背クヤ否ヤノヿニ付テ州官及邑官ノ處置ヲ監

査スル事

第七　撰任ニ付人ノ適不適ノ事ニ關スル決定及既ニ撰任セシ者ノ撰任ヲ眞正ト定ムルヿニ管スル決定

右ノ外諸卿ノ責任ニ關スルノ決定及官員ヲ訟フヘキヿヲ定ムル布告モ亦國王ノ確定ヲ受クルニ及ハス

第百二十六條　租稅取立ノヿ租稅ノ繼續シテ收ムヘキ期限ヲ延引スル事租稅ヲ徵收スルヿニ關スル民選議院ノ布告ハ法律ノ名義ヲ用ヒ國王ノ確定ヲ受スシテ之ヲ布告シ行フ可シ但罰金幷ニ負債拂濟迄ノ禁獄ノ刑ヨリ重キ刑ヲ定ムル處ノ布告ハ格別トス尤モ右ノ布告ハ第百十一條已下第百十六條マテニ記シタル法式ヲ行ヒシ後ニアラサレハ之ヲナスヘカラス且民選議院ハ其布告ノ目的ニ關セサルヿヲ之ニ記入スヘカラス

第百二十七條　民選議院ハ全ク編制セシ後總代ヲ以テ國王ニ其旨ヲ報知スヘシ國王ハ毎年自ラ開議ノ式ヲナスヲ得ヘシ且國王ハ其集會中民選議院ヲシテ熟考セシメントスル諸事件ヲ陳述スルヲ得ヘシ尤モ右ノ式ナリトモ民選議院ハ其開議ヲ爲スヲウヘシ

第百二十八條　民選議院ハ其會議ヲ十五日以上延期セントスル時ハ少クトモ八日前ニ總代ヲ以テ之ヲ國王ニ報知スヘシ

第百二十九條　各集會ノ終日ヨリ少クトモ八日前ニ議院ハ其會議ヲ鎖サントスルノ日限ヲ總代ヲ以テ國王ニ報知スヘシ國王ハ鎖議ノ式ヲ行フト否カラサルトハ隨意タルヘシ

第百三十條　國王ハ國ノ爲メ其集會ヲ續クヿ會議ヲ延引セサルヿ其延引ノ時間ヲ減スルヿニ付テ存意アレハ書面ヲ以テ其旨ヲ民選議院ニ報知スヘシ民選議院ハ其書面ニ循フト否サルトヲ決議

スヘシ

第百三十一條　國王ハ民選議院ノ集會終リシ上其後ノ集會ノ前ニ再會セシムレハ國益ニナルヘキト思フトキハ民選議院ヲ召集スルヲ得ヘシ又民選議院解散ノ前ニ其休會中事宜ニヨリ再會スヘキ場合ヲ豫メ定ムルニ於テモ其場合ニ至ラハ之ヲ召集スルヲ得ヘシ

第百三十二條　國王ハ民選議院ノ會席ニ出ル毎ニ民選議院ノ總代トシテ議員數人國王ヲ迎ヘ且之ヲ送ルヘシ大子及諸卿ノミ國王ニ隨從スルヲ得ハシ

第百三十三條　孰レノ場合ニモ民選議院ノ議長ハ民選議院ノ總代ニ參加スヘカラス

第百三十四條　國王出席スル間ニ於テハ民選議院事ヲ議スルヲ得ス

第百三十五條　國王ト民選議院トノ往復ノ總テノ証書ニハ其事ニ關スル卿一人之ニ加印スヘシ

第百三十六條　諸卿ハ民選議院ニ入ルノ權アルニ因テ其定席ヲ設クヘシ○諸卿ハ已ノ行政ニ關スル事件ニ付テ論説セント願フトキ又民選議院ヨリ其説明ヲ請フ時ハ辨説スルヲ得ヘシ○諸卿ハ己ノ行政ニ關セサル事件ニ付テハ民選議院質問スルニ非サレハ辨説スルヲ得サルヘシ

○佛蘭西一千七百九十三年

第廿一條　國民ノ名代タル者ヲ設立スルヿハ國ノ人數ニ基キテノミ之ヲ爲ス

第廿二條　各四萬人ニ代議者一人之アルヘシ

第廿三條　三萬九千人ヨリ四萬一千人迄ノ人數ニ應シタル各下會ハ直ニ代議者一人ヲ委任スヘシ

第廿四條　代議者ノ撰任ハ投票過半ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第廿五條　下會ニ應シタル人數三万九千人以下ナルニ於テハ其下會已ノ投票ノ計算ヲナセシ後其名代一人ヲ撰ヒ共ニ投票ヲ爲ス可キ下會ノ管轄中ニ定メタル中央ノ下會所ヘ遣ハスヘシ此下會所ニ於テ代議者一人ノ撰任ノ爲メ總テノ下會ノ投票ヲ合セテ代議者ノ撰任ヲ爲スヘシ

第廿六條　前條ニ循ヒ各下會ノ投票ヲ合セシ上其進メタル人名孰レモ投票全數ノ過半ヲ受ケサルトキハ投票ノ最上數ヲ受ケタル兩人ノ間再度撰擧ノ投票ヲナサシムヘシ

第廿七條　兩人各受ケシ投票ノ度數均キトキハ年長ノ者ヲ撰ムヘシ

又年モ均キトキハ探圖ヲ以テ撰ムヘシ

第廿八條　國民ノ權ヲ行フヲ得ヘキ佛蘭西人ハ共和國ノ全領分中孰レノ所ニ於テモ代議者ニ委任セラルヽヲ得ヘシ

第廿九條　各代議者ハ全國ノ名代ト見做スヘシ

第三十條　代議者其任職ヲ辭謝シ或ハ免職ヲ願ヒ或ハ奪職セラレ或ハ死去セシトキハ其代リニ爲スヘキ代議者ノ撰任ハ元ノ代議者ヲ撰任セシ下會ヨリ之ヲ爲スヘシ

第三十一條　免職願ヒシ代議者ハ已ノ代リニ爲スヘキ代議者ノ撰任ヲ民選議院ヨリ承諾スル迄ハ退職スル能ハス

第三十九條　民選議院ハ永久不易ナルヘキモノ且ツ一ナル者ナリ

第四十條　民選議院ノ席期ヲ一年トス

第四十一條　民選議院ハ七月一日集會スヘシ

第四十二條　民選議院ハ代議者ノ過半集ラサレハ制立セリト云フヘカラス

第四十三條　代議者民選議院ノ集會ニ陳述セシ存意ニ就テ孰レノ時ニモ之ヲ搜索セラレ訴ヘラレ或ハ裁判サルヽヘカラス

第四十四條　代議者ハ重罪ヲ行ヘハ其行罪ノ地所及時間ニ發見セラルヽニ於テハ之ヲ取押ヘルヲ得ヘシト雖ヒ檢視ヨリ出スヘキ捕票及呼出書ハ民選議院ノ承諾ヲ受ケサレハ之ヲ差出スヘカラス

第四十五條　民選議院ノ會議ハ公然之ヲナスヘシ

第四十六條　其會議ノ論說ノ調書ヲ上梓スヘシ

第四十七條　民選議院ハ代議者二百人以上出席セサレハ評議スヘカラス

第四十八條　孰レノ代議者ニモ已ノ存意ヲ述ントスルトキハ之ヲ許サヽルヲ得ス且存意ヲ述ント願ヒ出セシ先後ニヨリテ之ヲ代議者ニ許スヘシ

第四十九條　評議ハ出席代議者ノ過半ヲ以テ之ヲ決ス

第五十條　出席代議者ノ數ヲ見紀サンカ爲メ人ヲ順次ニ名ヲ呼フヘシトノ願ヒヲ述フル代議者五十人以上ナレハ之ヲ必ス爲スヘシ

第五十一條　民選議院ハ代議者集會中ノ行儀ニ就テ督責ノ權アリ

第五十二條　民選議院ノ集會所及己ノ定メシ構內ノ取締ハ民選議院ニ歸ス

第五十三條　民選議院ハ法律ヲ進達シ且布令ヲ爲スヘシ

第五十四條　凡法律トハ左ノ所業ニ管スル民選議院ノ決定ナリ

一　民法及刑法ノ事

一　共和國ノ歳入及通例ノ歳出ヲ掌管スル事

一　國家財産ノ事

一　貨幣ノ性質重量紋象及位名ヲ定ムル事

一　租税ノ性質金高及徴收方法ノ事

一　戰書ヲ授スル事

一　佛蘭西國領分一般ノ區部ヲ變革スル事

一　公學ノ事

一　功臣ニ授クル公然ノ追賞ノ事

第五十五條　布令トハ左ノ所業ニ管スル民選議院ノ決定ナリ

一　年ニ海陸軍ノ兵數ヲ定ムル事

一　外國ノ兵隊佛蘭西國領分ヲ通行スルヿノ免除或ハ禁制ノ事

一　外國ノ軍艦共和國ノ港ニ入ル事

一　國家ノ安寧ニ管スル處置ノ事

一　教育ニ付年々及臨時渡スヘキ物品ヲ配賦シ又ハ公川ノ工業ヲ授クル事

一　諸貨幣鑄造ノ命令ヲ出ス事

一　額外ノ雜費及非常ノ雜費ノ事

一　一支配（アドミニストラシヨン）及一邑又ハ公用ノ工業ノ一致ニ限ル格段ナル處置ノ事

一　領國ノ防禦ノ事

一　外國トノ條約ヲ確定スル事

一　軍勢ノ總大將ノ任職及奪職ノ事
一　行政院ノ官員及他ノ官員責ヲ任スヘキ事件ニ就テ訟フル事
一　共和國ノ安寧ニ對シテ妨害ヲ爲セシ人ヲ訟フル事
一　佛蘭西國領分中郡邑區ノ部ヲ變革スル事
一　國ノ名義ヲ以テ授クル褒賞ノ事

○佛蘭西一千七百九十五年

第四十四條　民選議院ハ老人議院及五百員議院ヲ以テ編制スル者ナリ

第四十五條　孰レノ場合ニモ民選議院ハ建國法ヨリ己ノ委托シタル職務ノ內孰レノ職務モ本院ノ議員中ノ一人或ハ數人又ハ孰レノ他ノ者ニ移托スル能ハス

第四十六條　民選議院ハ自身或ハ代人ヲ用ヒ爲スヲ問ハス行政權ト裁判權トヲ執行スヘカラス

第四十七條　共和國古記保存役ヲ除クノ外孰レノ公然職役モ民選議員ノ役ト兼帶スヘカラス

第四十八條　官員ハ民選議員トナルトキハ法律ニ定メタル規則ニ從テ其代役ヲ假ニ勤ムヘキ者ヲ任スヘシ

第四十九條　各州ハ其人數ニ應シタル分量ヲ以テノミ老人議院及五百員議院ノ議員ヲ選任スヘシ

第五十條　十年目ニ民選議院ハ已ニ屆ケタル各州ノ人員表ニ基キ各州ヨリ老人議院及五百員議院ニ差出スヘキ議員ノ數ヲ定ムヘシ

第五十一條　前條ノ如ク各州ニ割付タル議員ノ數ハ其割付表ヲ定メシ後十年間少シモ變改スヘカラス

第五十二條　民選議院ノ代議者ハ已ヲ撰任セシ州ノ名代ニアラスシテ全國ノ名代ナルニヨリテ其選任シタル州ヨリ就レノ托命モ受クヘカラス

第五十三條　民選議院ノ兩院改選ハ代議者ノ三分一ヲ年々改選シテ之ヲ爲スヿナリ

第五十四條　已ニ三年間代議者ノ職務ヲ勤メシモノハ其後ノ三年ノ爲メ選任サルヽヲ得ヘシト雖ヒ已ニ六年間勤メシ上ハ後ノ二年間ヲ隔テサレハ之ヲ選任スヘカラス

第五十五條　如何ナル場合ヲ問ハス就レノモノモ六年間餘續キテ代議者ノ職務ヲ勤ムル能ハス

第五十六條　若シ民選議院兩院ノ内一院ノ議員ハ非常ノ場合ニ依リ全數ノ二分ヨリ減少スル節ハ其議院ハ右減少ノ趣ヲ督理官(ジレクトル)ニ報知スヘシ督理官ハ右代議者ノ缺役スル州ノ下會ヲ直ニ召集スヘシ右下會ニ於テ選立人ヲ撰任シ選立人ハ民選議院ノ缺役ヲ補フヲ要スル代議者ヲ選任スヘシ

第五十七條　民選議院兩院ノ爲メ年々新ニ選任シタル代議者ハ毎年ノ五月二十日ニ集會スヘシ但前ノ民選議院ヨリ定メタル場所ニ集會スヘシト雖ヒ若シ前ノ民選議院ハ別段ニ場所ヲ定メサリシトキハ右議院ハ已ノ終リノ會議ヲナセシ邑ニ於テ集會スヘシ

第五十八條　民選議院ノ兩院ハ常ニ同一ノ邑ニ集會スヘシ

第五十九條　民選議院ハ常ニ絶ヘス集會スヘキモノト雖ヒ自已ノ會議ヲ延期シ且其期ノ長短ヲ自ラ決スルヲ得ヘシ

第六十條　孰レノ場合ニテモ民選議院ノ兩院ハ同一ノ席ニ集會スヘシ

第六十一條　五百員議院老人議院ヲ問ハス議長及書記ノ役務ノ期限ハ一ケ月ヲ過クヘカラス

第六十二條　兩院共各已ノ集會所及已ノ定メタル構内ニ自ラ其取締ヲナスヘシ

第六十三條　兩院各議員ニ對シテ命ヲ守シムルノ權了ルト雖ヒ督責或ハ八日ノ謹慎或ハ三日ノ入牢ノ罰ヨリ嚴重ナル罰ヲ議員ニ命スヘカラス

第六十四條　兩院ノ會議ニ來聽ヲ飾スヘシト雖ヒ來聽人ハ議員ノ半數ヲ過クヘカラス○會議ノ論説ノ調書ヲ上梓スヘシ

第六十五條　孰レノ決議モ議員其可否ヲ論スルニ依テ其可トスル者ハ之ヲ起タシメ其否トスルモノハ之ヲ坐セシメ以テ之ヲ定ム若シ可否ノ發言ノ數不分明ナルトキハ議員ノ名ヲ呼ヒ内密ノ投票ヲ用ユヘシ

第六十六條　已ノ議員ノ内百人以上内密商議ヲ願フトキハ各院ハ内密會議ノ体裁ヲ用ヒ商議スヘシト雖ヒ右ハ商議ノタメノミ免シタル者ニシテ孰レノ決議モナスヘカラス

第六十七條　民選議院ノ孰レノ議院モ院中常集總代ヲ設立スヘカラスト雖ヒ豫メ吟味スヘキ事件アルトキハ議員中選舉シタル人ヲ以テ委員トシ其事件ヲ取調ヘシムルヲ得ヘシ尤モ總代ノ所業ハ其事件ニ限ルヘシ且已レニ委托シタル用務濟次第解放セサルヲ得ス

第六十八條　民選議院ノ議員ハ年々扶助金ヲ受クヘシ右ノ高ハ麥

六百十三[ケンタル]佛蘭西量名一[ケンタル]ハ百[リブル]ナリ三十二[リブル]二[リブル]ハ我廿錢ナリ

第六十九條　督理官ハ民選議院ノ願ヒ或ハ免許ヲ受ケサレハ民選議院集會スル處ノ邑ヨリ六万[メートル]大約我十二里ノ内ニ兵隊ヲ過行或ハ屯留セシムヘカラス

第七十條　民選議院ノ側ニ番兵ヲ置クヘシ右ハ各州ノ常在保國兵ノ内兵士ヨリ自ラ選舉シタル兵士ヲ以テ編制スヘク且千五百人ノ數ヲ過クヘカラス

第七十一條　右番兵ノ用務及其勤ムヘキ年期ハ民選議院之ヲ定ム

第七十二條　民選議院ハ孰レノ公祭ニモ出席スヘカラス又院ノ名代トシテ右ノ公祭ニ委員ヲ差出スヘカラス

第七十三條　右ノ員數ハ五百員ニ定ムル者ニメ之ヲ增減ス可ラス

第七十四條　五百員議院ニ選任サルヽニ滿三十歲ニ至リ且其撰任前ノ十年中ニ共和國領地ニ住居セサルヲ得ス但共和政治設立セシ後ノ第七年マテハ滿二十五歲ヲ以テ足レリトシテ三十歲ナルニ及ハス

第七十五條　五百員議院ノ評議ニ出席スル議員ハ二百人以上ナヲサレハ決議スル能ハス

第七十六條　法律ヲ起草スルヿハ專ラ五百員議院ニ歸ス

第七十七條　孰レノ議案ニモ左ノ法式ニ從ハサレハ五百員議院之ヲ評議シ且之ヲ決定スヘカラス議案ハ三過讀セシムルモノニシテ兩過讀ノ間十日以上ノ時間アルヘシ

一　一過讀終リシ毎ニ評議ヲ開クヘシト雖モ第一過讀或ハ第二過讀ノ後五百員議院ハ此議案ノ評議ヲ延引スヘキ旨或ハ評議スルニ及ハサル旨ヲ申立ルヲ得ヘシ

一　孰レノ議案モ之ヲ上梓シ且第二過讀ノ二日前ニ代議者ニ

配當スヘシ

一　第三過讀終シ後五百員議院ハ其議案ノ評議ヲ延引スヘキヤ否ヲ必ス決定スヘシ

第七十八條　孰レノ議案モ第三過讀ノ後評議セシ上廢棄スルコ於テハ滿七年過キシ上ナラサレハ之テ議院ニ再ヒ進ムヘカラス

第七十九條　五百員議院ヨリ爲シタル決定ノ名號ヲ用ユヘシ（レソルシヨン）

第八十條　凡決定書ノ前文ニハ左ノ事ヲ記スヘシ

第一　第三過讀ヲ爲セシ月日

第二　第三過讀ノ後其議案ノ評議ヲ延引スルニ及ハストノ議院ノ申立書

第八十一條　五百員議院ニ於テ議案ハ至急ナルヿヲ前以テ申立ルトキハ此議案ヲ決定スルニ第七十七條ノ式ニ從フニ及ハス但右申立書ニ其至急ノ譯柄ヲ記スヘシ且決定書ノ前加文ニ右申立書ヲ記入スヘシ

第八十二條　老人議院ハ二百五十八ヲ以テ編制ス

第八十三條　孰レノ者モ左ノ件々ニ適セサレハ老人議員トナルヘカラス

一　四十歳以上ナル事

一　婦ヲ持チ或ハ曠夫ナル事

一　其選任前ノ十五年間共和國ノ領地ニ住居セシ事

第八十四條　前第七十四條及第八十三條ニ記シタル住居ノヿハ政府ヨリ托命ヲ受ケ他國ヘ出張セシ人ニ管スルヿナシ

第八十五條　議員百二十六人以上出席セサレハ老人議院ハ評議スル能ハス

第八十六條　五百員議院ノ決定ヲ可否スルヿノ權ハ老人議院之ヲ

獨有ス

第八十七條　五百員議院ノ決定書老人議院ニ屆ケ次第ニ議長其前文ヲ讀聞スヘシ

第八十八條　五百員議院ノ決定憲法ニ定メタル法式ニ從テ爲サヽリシトキハ老人議院ハ必ス之ヲ許諾スルヲ肯セサルヘシ

第八十九條　五百員議院ニ於テ議案至急ナルヿヲ申立シトキハ老人議院其至急ノ可否ヲ評議スヘシ

第九十一條　五百員議院ノ決定書ニ至急ナルヿヲ申立テ前加セサルトキハ老人議院三過讀ヲ爲スヘシ但兩過讀ノ間ニ五日以上ノ時間アルヘシ各讀終リシ上評議ヲ開クヘシ且孰レノ決定ニモ之ヲ上梓シ第二過讀ノ二日前ニ議員ニ配當スヘシ

第九十二條　老人議院ノ決定ハ法律ノ名號ヲ用ユヘシ

第九十三條　法律ノ前文ニ老人議院其三過讀ヲ爲セシ月日ヲ記スヘシ

第九十四條　老人議院ニ於テ一過ノ法律至急ナルヿヲ定ムルニ此旨ヲ布令ヲ以テ委細ニ証記シ且右ノ布令ヲ法律ノ前文ニ記入スヘシ

第九十五條　五百員議院ヨリ老人議院ヘ差進メタル法律ノ議案ハ首尾セサルヲ得サル者ニシテ老人議院之ヲ評議スルトキハ或ハ其全分ヲ承許シ或ハ其全分ヲ廢棄セサルヲ得ス

第九十六條　老人議院ニ於テ議案ヲ承許スルトキ之ヲ証スルニ議案ノ文面ニ左ノ文式ヲ書加フヘシ其文ニ曰ク「老人議院左ノ件々ヲ承諾ス」云々且議長及書記役之ニ調印スヘシ

第九十七條　老人議院ニ於テ前第七十七條ニ記シタル因緣ヲ以テ

議案ヲ評議セサル前ニ之ヲ廢却スルトキハ左ノ文式ヲ用ヒ議長及書記役之ニ調印スヘシ其文ニ曰ク「建國法ハ左ノ件々ヲ取消ス」

第九十八條　老人議院ハ議案ヲ評議セシ後之ヲ廢却スルトキハ議長及書記役ヨリ調印シタル左ノ文式ヲ其議案ノ書面ニ書加フヘシ

其文ニ曰ク「老人議院左ノ件々ヲ廢却ス」

第九十九條　前條ニ從テ廢却シタル議案ハ其廢却ノ時ヨリ一年ノ後ナラサレハ之ヲ老人議院ヘ差出スヲ得ス

第百條　既ニ廢棄シタル議案ノ數ケ條ヲ新規ノ議案ニ記入スト雖モ五百員議院ハ何時ニテモ此議案ヲ老人議院ヘ差出スヲ得ヘシ

第百一條　老人議院ハ己ノ承許シタル法律ハ其承許セシ日ニ之ヲ五百員議院及督理官ヘ送達スヘシ

第百二條　老人議院ハ民選議院ノ集會所ヲ變改スルヲ得ヘシ右ノ務令ニ於テ新規ナル場所及兩院右ノ場所ヘ移轉スヘキ日限ヲ定ムヘシ右ニ付テノ老人議院ノ布令ハ之ヲ廢シ或ハ改ムヘカラス

第百三條　老人議院前條ニ記シタル布令ヲ廢スルトキハ其後兩院ハ其日マテ集會セシ所ノ邑ニ評議スヘカラス其邑ニ續テ役務ヲ勤ムル代議者アレハ其ノ代議者共和國ニ對シテ妨害ノ罪ヲ犯セシ者トス

第百四條　督理官ノ官員ハ若シ民選議院ノ集會所移轉スヘキ布令ヲ封印スルヿヲ肯セサルカ又ハ是ヲ班布スルヿ或ハ送達スルヿヲ肯セサルトキハ其官員モ共和國ニ對メ妨害ノ罪ヲ犯セシ者トス

第百五條　民選議院ノ移轉ノ爲メ老人議院ヨリ定メタル日限ヨリ廿日ノ後ニ至リ兩院議員ノ過半ハ己ノ新規ノ集會所ヘ到著セシ旨或ハ其地所ニ於テ已ノ集會セシ旨ヲ共和國民ニ未タ布達セサ

ルトキハ州政官新規ノ民選議院ヲ設立スヘキ爲メ下會ヲ召集スヘシ若シ州政官之ヲ爲サヽルトキハ其州ノ郡裁判所之ヲナスヘシ但民選議院ヲ編制スルニ老人議院ノ爲メ二百五十員五百員議院ノ爲メ五百員ヲ選任スヘシ

第百六條　前條ノ場合ニ於テ下會ヲ召集スルニ怠ル州政官ハ共和國ニ對シ叛逆及妨害ノ罪ヲ訴ヘラルヘシ

第百七條　第百六條ニ記シタル場合ニ於テ下會ノ召集ヲ妨クル都テノ人民ハ其條ニ記シタル罪ヲ訴フヘシ

第百八條　新規ノ民選議院ノ議員ハ元ト老人議院議席ヲ移轉セシ場所ニ集會スヘシ若シ右場所ニ集會スルヿ能ハサルトキハ議員ノ過半集會シタル場所ヲ民選議院ノ席トス

第百九條　第百二條ニ記シタル場合ノ外ハ老人議員ハ就レノ法律ノ議案モ自ラ勸告スル能ハス

第百十條　民選議院ノ議員及曾テ勸メシモノハ其在勤中ノ發言或ハ記セシヿニ付テ之ヲ搜索シ之ヲ告訴シ或ハ之ヲ裁判スヘカラス

第百十一條　民選議院ノ議員ハ其委任シタルトキヨリ其職務ヲ廢スル日マテ左ノ條々ニ記シタル法式ヲ以テナラサレハ之ヲ裁判所ヘ告訴スヘカラス

第百十二條　議員ハ重罪ヲ犯スニ於テ如シ其犯罪ノ地所及時間ニ之ヲ發見セラルヽトキハ之ヲ取押ヘルヲ得ヘシト雖其旨ヲ直ニ民選議院ヘ屆出ヘシ且五百員議院右議員ヲ告訴スヘキヲ勸告シ老人議院布令ヲ以テ之ヲ決定セシ後ナラサレハ其告訴ヲ續ク能ハス

第百十三條　議員ハ重罪ヲ犯セシト雖モ如シ其犯罪セシ場所及時

問ニ之ヲ發見セサレハ五百員議員之ヲ告訴スヘキヿヲ勸告シ老人議院之ヲ告訴スヘキヿヲ布令ヲ以テ決定セシ後ナラサレハ議員ヲ取押ヘ或ハ之ヲ警視役ノ處ヘ拘引スヘカラス

第百十四條　前兩條ニ記シタル場合ニ於テ民選議院ノ議員ハ最上裁判所ノ外孰レノ裁判所ヘモ告訴スル能ハス

第百十五條　叛逆ノ罪官金濫消ノ罪建國法ヲ破壞スル爲ノ謀或ハ共和國ニ對シテ妨害ノ罪ヲ犯セシ民選議院ノ議員ヲモ最上裁判所ヘ告訴スヘシ

第百十六條　民選議院ノ議員ニ對シテ爲シタル孰レノ罪ノ告發モ如シ書面ヲ以テ之ヲナシ之ニ花押シ且之ヲ老人議院ヘ届出サレハ告訴ノ本トナルヘカラス

第百十七條　老人議院第七十七條ニ記シタル法式ヲ用ヒ評議セシ上如シ右罪ノ告發ヲ可ト決スルトキハ左ノ文面ヲ以テ之ヲ告公スヘシ○其文ニ曰ク「何月日何人ニ花押シタル何罪告發ヲ可トス」

第百十八條　前條ノ場合ニ於テ被告人ヲ召スヘシ但本人召サルヽ日ノ後三日ヲ經テ其ノ翌日必ス出ヘシ本人五百員議院ノ會議所ヘ出ル上其會議所内ニ己ノ辨解ヲナスヲ得ヘシ

第百十九條　召サレタルモノハ出席スルトセサルトヲ問ハス右時間ヲ經過セシ後五百員議院ハ本人ノ行狀ヲ吟味スヘキヤ否ヲ決定スヘシ

第百二十條　五百員議院ニ於テ本人ノ行狀ヲ吟味スヘキヿヲ決定スルトキハ老人議院本人ヲ召スヘシ但本人召ルヽ日ノ後ニ日本人出ルトキハ老人議院ノ會議所内ニ己ノ辨解ヲ爲スヲ得ヘシ

第百二十一條　本人出ルト出サルトヲ問ハス前條ニ記シタル時間

過シ後老人議院ハ第九十一條ニ記シタル法式ヲ用ヒ評議セシ上如シ本人告訴スヘシト思フトキハ此告訴ヲ申立且本人ヲ最上裁判所ヘ送ルヘシ但最上裁判所ニ於テ速ニ此訴ヲ裁判スヘシ

第百二十二條　民選議院ノ議員ニ對セシ罪ノ訴或ハ裁判所ヘ罪ヲ告訴スヘキヿニ管スル兩院ノ評議ハ內密會議總代之ヲ爲スヘシ且右ノ事ニ管スル孰レノ決定モ順次ニ議員ノ名ヲ呼ヒ內密ノ投票ヲ出サシムルヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第百二十三條　民選議院ノ議員ニ對シ之ヲ告訴スヘシ○決定ハ議員ノ停職ヲ生スヘシ○如シ最上裁判所ニ於テ議員罪ナキヿヲ言渡ストキハ其議員己ノ職ヲ再勤スヘシ

○佛蘭西　一千七百九十九年

第三十一條　民選議院ハ三十歲以上ノ議員ヲ以テ編制スル者ニシテ每年其議員ノ五分ノ一ヲ改選スルヲ以テ五年目ニ及ンテ全院變改ス但共和國各州ヨリ少クモ名代一人ヲ民選議院ヘ差出スヘシ

第三十二條　民選議員ノ內退役シタル者ハ退役セシ日ヨリ一年ノ後ナラサレハ其院ニ再勤ス可ラスト雖ヒ第一等ノ民選議院或ハ孰レノ公用ノ他ノ職役ニ直ニ任セラルヽヲ得ヘシ但本人其職役ニ任セラルヽヲ得ヘキ國民ノ連名書ニ記名セサルトキハ格別トス

第三十三條　民選議院ノ會席ハ每年ノ十一月二十一日ニ初ムル可キ者ニシテ四ケ月間ノミ續クヘシ尤政府ハ其終リシ月ヨリ後八ケ月中ニ之ヲ召集シ非常ノ會席ヲナサシムヘシ

第三十四條　法律ヲ作ルニ民選議院ハ第一等ノ民選議院及政府ノ

發議人ヨリ己ノ面前ニ評議セシ法律ノ議案ニ付テ内密ノ投票ヲ以テ決定ヲナスヘシ即チ民選議院ノ議員ハ右ニ付テ孰レノ評議ヲモナスヘカラス

第三十五條　第一等ノ民選議院及民選議院ノ會席ニ來聽ヲ許スト雖ヒ右孰レノ議院ニモ來聽人ノ數ハ二百人ヲ過ク可ラス

第三十六條　第一等ノ民選議院ノ議員ノ年給ハ一萬五千〔フランン〕ナリ民選議院ノ議員ノ年給ハ一萬〔フランン〕ナリ

第三十七條　民選議院一ノ布令ヲ制定セシ日ヨリ十五日ヲ經テ如シ其布令建國法ニ背犯スルノ所以ヲ以テ元老院ヘ控訴セサレハ第一等ノ宰相之ヲ班布セサルヲ得ス但布令ヲ班布セシ後之ヲ元老院ヘ控訴スルヲ得ス

第三十八條　民選議院及第一等ノ民選議院ヲ初メテ改選スルヲハ共和政事ノ第十年中之ヲ爲スベシ但千八百一年ト云フナリ

○佛蘭西一千八百○二年

第三十五條　各區ノ選立議會ハ州郡ノ選立議會ニ委任スルヲ得可キ數議員有リト雖ヒ其委任スルヲ得ヘキ定員ノ三分一欠員セシ上ナラサレハ欠役ノ代役ヲ任スヘカラス

第三十六條　選立議會ハ政府ヨリ爲シタル召集ノ告書ニヨリテノミ集會シ且其定メタル場所ニ集マルヘシ

右議會ハ其召集シタル所ノ目的ノ所業ニノミ管スルヲ得ベシ且其召集ノ告書ニ記シタル期限ヨリ長ク會席スルヲ得ス右ノ規則ニ違背スル議會アレハ政府之ヲ解散スルヲ得ベシ

第三十七條　諸選立議會ハ直ニ或ハ孰レノ譯ヲ托シテ潛カニ相互

ニ往復ス可カラス

第三十八條　選立議會ハ解散ニナル上ハ其議員ヲ改選セサルヲ得ス

第六十六條　國議院ノ議官ノ數ハ就レノ場合ニモ五十員ヲ過ク可カラス

第六十七條　國議院ハ數課ニ分ツヿナリ

第六十八條　諸卿ハ國議院ニ於テ出席ノ權及決議ノ權ヲ有スルヿナリ

第六十九條　各州ハ己ノ民數ノ多少ニ應シ目錄書ニ從テ民選議院ニ數人ヲ差出スヿナリ

第七十條　選立議會ヨリ共ニ選舉シタル國民ハ共ニ議員ニ選任スヘシ

第七十一條　共和國ノ諸州ハ民選議院ノ選業ニ就テハ目錄書ニ從テ五部ニ分ツヿナリ

第七十二條　當今ノ議員ハ右五部ノ内一部ニ入ルヘシ

第七十三條　議員ハ其出ル處ノ州ノ屬スル部ノ議員ヲ改選スル年中ニ之ヲ改選スヘシ但按スルニ右ノ意ハ先ツ前第三十一條ニ記シタル如ク民選議院ノ改選ハ毎年議員ノ全數ノ五分一ヲ改選スルカ故ニ前第七十一條ニ從テ全國ヲ五部ニ分ヲ而ノ第一部内ノ州ニ屬スル議員ハ第二年中之ヲ改選シ第二部内ノ州ニ屬スル議員ハ第三第四第五部内ノ州ニ屬スル議員ハ次第ニ年ヲ逐フテ第五年中迄ニ改選スヘシ

第七十四條　尤モ共和政治第十年中選任シタル議員ハ滿五年間勤ムヘシ

第七十五條　政府ハ民選議院ヲ召集スルヿ其集會ノ期限ヲ延引スルヿ其會議ノ時間ヲ增加スルヿヲ爲ス

第七十六條　共和政治第十三年以後第一等ノ民選議院ノ議員ヲ減シテ五十八ニ屬スヘシ右五十八ノ內二十五人ハ三年目ニ改選スヘシ但議員ハ五十人ニ減スルカ爲メ三年目ニ退職スヘキ議員ノ代役ヲ任スヘカラス〇一トリブナ」ハ數課ニ分ツヘシ

〇佛蘭西一千八百〇四年

第七十八條　民選議院ノ議員ハ已ノ職務ノ期限終シ上直ニ之ヲ再任スルヲ得可シ

第七十九條　民選議院ニ進達シタル法律ノ草案ハ之ヲ第一等ノ民選議院ノ三課ヘ差送ル

第八十條　民選議院ノ議席ハ平常ノ議席及特別ノ議席ニ分ツ

第八十一條　平常ノ議席ニハ民選議院ノ議員國議院ノ發議人及第一等ノ民選議院ノ三課ノ發議人出席ス〇特別ノ議席ニハ民選議員ノミ出勤ス〇議長ハ平常ノ議席ト特別ノ議ニモ上席ス

第八十二條　平常ノ議席ニ於テ民選議院ハ國議院及ヒ第一等ノ民選議院ノ三課ノ發議人ノ論ヲ聞キシ上法律ノ草案ノ可否ヲ決定ス

第八十三條　民選議院ハ左ノ場合ニ於テ特別ノ議席ヲ爲ス可シ

第一　議長ノ召集ニヨリ民選議院ノ內務ノヿヲ議スル爲メ

第二　出席スル議員五十人ノ花押シタル願書ヲ議長ヘ差出シタル場合但右二箇ノ場合ニ於テモ其議席ニ來聽ヲ許スヘカラス且議事ヲ版告シ或ハ之ヲ洩言スルヿハ禁止ナリ

第三　政府ノ免許ヲ受シ上國議院ノ發議人之ヲ願フ場合

右第三ノ場合ニ於テ民選議院ノ議席ハ特別ノ議席ト雖ヒ必ス來總ヲ免ス可シ○特別ノ議席ニ於テ孰レノ決定モ爲スヲ得ス

第八十四條　特別議席ニ於テ草案ノ評議終リシ後其翌日平常ノ議席迄決定ヲ延引ス可シ

第八十五條　民選議院ニ於テ草案ノ可否ヲ定ムヘキ處ノ議席ニハ國議院ノ發議人ノ論辨ノ略旨ヲ聞入ヘシ

第八十六條　孰レノ場分ニ於テモ草案ノ評議ヲ閉鎖スル爲メ定メタル日ヨリ三日ヲ過キ其決定ヲ延引スルヲ得ス

第八十七條　第一等ノ民選議院ノ課ハ民選議院ノ委員トナルニヨリテ民選議院ハ左ノ第十三編ノ第百十三條ニ記シタル場合ノ外ハ他ノ委員トナルヲ得ス

第八十八條　第一等ノ民選議院ノ職務ノ期限ハ十年トス

第八十九條　第一等ノ民選議院ノ議員ノ改選ハ五年目ニ其全數ノ半ヲ改選スルヲ以テス初ノ改選ハ即千八百二年八月五日ノ元老院建國決定書ニ從テ千八百九年ノ會席ノ爲メ之ヲナス可シ

第九十條　第一等ノ民選議院ノ議長ハ「トリブナ」ノ內密會議ニテ出シタル議員ノ投票ノ過半ニヨリ薦メタル三人ノ內皇帝ヨリ之ヲ委任スヘシ

第九十一條　第一等ノ民選議院ノ議長ノ職務ノ期限ハ二年トス

第九十二條　「トリブナ」ニ於テ攝政官（ノヘストル）二人有ルヘシ右ハ皇帝ヨリ任スヘキ者ニシテ「トリブナ」ノ內密會議ニテ出シタル投票ノ過半ニ從テ爲シタル連名書中ヨリ選擧ス但右各官員ヲ任ス可キ爲メ連名書ニ三人ヲ記名ス可シ

右「クヘストル」ノ役務ハ千八百三年ノ元老院建國決定書ノ第十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、及二十五條ニ於テ民選議院ノ「クヘストル」ノ爲メ定メタル役務ト同樣タルヘシ○毎年「クヘストル」一人ヲ改選ス可シ

第九十三條　「トリブナ」ハ左ノ通リ三課ニ分ツヘキ者ナリ

法制課　內務課　財務課

第九十四條　右各課ニ於テ己ノ議員ノ內選ヒタル三人ノ連名書ヲ作リ議長其內一人ヲ選ヒ課長ニ任ス可シ○課長ノ職務ノ期限ハ一年トス

第九十五條　國議院ト第一等ノ民選議院トノ同務ノ課ハ合議スルヿヲ欲スル時ハ其評議ノ事件ニ依リテ帝國ノ帝國印璽大監（アルシヤンソリエ）或ハ主計大監（アルシトレソリエ）其會議ニ上席ス可シ

第九十六條　「トリブナ」ノ各課ニ於テ民選議院ヨリ己レニ送リタル法律ノ議案ヲ分課ノ會議ニ於テ別々ニ評議スベシ「トリブナ」ノ三課各代言人二人ヲ民選議院ニ差出シ以テ己ノ意思及其論辨ヲ顯カシム

第九十七條　孰レノ場合ニモ法律議案ハ「トリブナ」ノ總會議ニ評議ス可ラス○法律議案ノ評議ノ外他ノ職務ヲ勤ムルニ第一等ノ民選議院ハ總會議ヲ爲スヲ得ヘシ其節議長其評議ヲ監察ス可シ

第九十八條　一州ノ選立議會ハ民選議院ノ議員ヲ選任スル爲メ用ユヘキ連名書ヲ作ントス集會スル毎ニ元老院ノ議員ヲ選任スル爲ノ連名書モ改正スヘシ右連名書○正セシ上ハ元ノ連名書ニ記名シタル者ト雖ヒ更ニ記名セサレハ任セラルヽノ權無カル可シ

第九十九條　勳社（レシヨンドール）ノ第一位第二位及第三位タル者ハ己ノ住居スル

所ノ州或ハ已ノ屬スル處ノ右勳社軍ノ諸州ノ內二州ノ選立會議ノ議員ニ自然ナルヘシ但那破崙第一世ニ於テ勳社ヲ設立セシ時ハ其大軍(レジヨン)ヲ數小軍(コホルド)ニ分チ各小軍ノ祿ニ供ス可キ爲メ幾許ノ領分ニ在ル國有ノ不動產ヲ之ニ該當スルヿナリ○勳社ノ第四位タル者ハ自然其住居スル所ノ郡ノ選立議會ノ議員ト成ル可シ但勳社ニ屬スルニヨリ選立議會ノ議員ニ代ルノ權ヲ有スル者ハ大選監(グランデレトトル)ヨリ右ノ爲メ請取ヘキ勳社證書ヲ差出スニ於テハ入會スルヲ得可シ

第百條　各州ノ長及各州兵ノ指令官ハ元老院ノ議員ナルニ其職ヲ勤ムル處ノ州ノ選立議會ヨリ選任セラル可ラス

○佛蘭西一千八百十四年

第三十五條　民選議院ハ其發布告スヘキ法律ニ從テ設立スヘキ選立議會ノ選任シタル代議者ヲ以テ編制スヘシ

第三十六條　各州ヨリ出スヲ得ヘキ代議者ノ數ト今迄差出シタル代議者ノ數ト同一タルヘシ

第三十七條　代議者ハ五年間ノ爲メ選任スヘキ者ニシテ每年議員ノ五分一ヲ改選スルヲ以テ全員ヲ改選スヘシ

第三十八條　凡代議者ハ滿四十歲以上ナリ且千(フラン)ニ我二十錢(一フラン)以上ノ直稅ヲ納ムル者ニアラサレハ民選議院ニ出席スルヿヲ許サス

第三十九條　然ヒ如シ其代議者ノ出ル所ノ州ニ於テ四十歲以上ニシテ且千(フラン)ニ我二十錢(一フラン)以上ノ直稅ヲ納ムル人ノ數五十人ヨリ少キ時ハ千(フラン)以上ノ直稅ヲ納メスト雖ヒ只直稅ヲ納ムル人

ノ中最上高税ヲ納ムル人ヲ入レ以テ其定數ヲ滿タシ之ヲ他ノ人ト同ク代議者ニ選任スルヲ得ヘシ

第四十條　代議者ノ選任ノ所業ニ參加スル處ノ選立人ハ三百フラン以上ノ直税ヲ納メ且三十歳以上ノ者ニアラサレハ選立人ノ集會ニ於テ決議ノ權ナカルヘシ

第四十一條　選立議會ノ議長ハ國王ヨリ委任スヘキ者ニシテ當然選立議會ノ議員タルヘシ

第四十二條　少クモ代議者ノ半數ハ州地内ニ其公然ノ住所ヲ定メ且選任セラルヽヲ得ヘキタメ法律ニ定メタル諸件ニ適當スル人ノ中ヨリ選任スヘシ

第四十三條　民選議員ノ議長ハ同院ニ於テ作リタル五人ノ名簿中ヨリ國王之ヲ選任スヘシ

第四十四條　全体民選議院ノ會席ハ衆庶ノ來聽ヲ許スヘシ然ルニ議員ノ中五人以上内密ノ評議ヲ爲スヿヲ願フ時ハ内密ノ會議ヲナスヘシ

第四十五條　民選議院ハ國王ヨリ已ニ送リタル法律ノ議案ヲ評議スルタメ數局ニ分ル

第四十六條　法律ノ議案ニ就レノ改正ヲ加フルモ國王ヨリ自ラ之ヲ進言シ或ハ之ヲ承諾シ且議院ノ局ニ於テ評議セシ上ニアラサレハ之ヲ爲スヘカラス

第五十一條　民選議院ノ會席中幷ニ其會議前ノ六週及閉議後ノ六週間ニ議員ヲ捕フル能ハス

第五十二條　民選議院ノ會席時間中重罪ノ訴ヲ以テ就レノ議員ヲモ原告シ之ヲ捕フ可ラス然ルニ議員ハ其犯罪ヲ爲セシ場所及時刻

ニ捕ヘラルヽ時ハ民選議院ノ承諾ヲ受ケシ上之ヲ原告スルヲ得ヘシ

第七十五條　先般民選議院ヲ解散セシ時ニ其議院ニ在勤セシ處ノ代議者ハ其代役ヲ任スル迄ハ續テ之ニ在席スヘシ

第七十六條　次後民選議院ノ議員ノ五分ノ一ヲ初テ改選スヘキ日ハ遅クモ千八百十六年ニ之ヲ爲ス可シ

○佛蘭西　一千八百十五年

第七條　下院ノ議員ハ之ヲ代議者ト稱シ且代議者ハ國民ヨリ撰任サルヽモノナリ

第八條　此議院ノ議員ハ六百二十九人アル可シ且代議者ニ任セラルヽヲ得可キ者滿廿五歲以上ナラサルヲ得ス

第九條　代議者ノ議員ノ議長ハ同院ノ開席ノ時節ニ代議者ヨリ之ヲ撰任ス可キモノニシテ代議者ノ改選迄ハ續テ其役ヲ勤ム可シ但代議者ヨリ爲シタル議長ノ撰任ハ皇帝ノ承諾ヲ受ケサルヲ得ス

第十條　此下院ノ議員ハ自ラ議員ノ任撰ノ正不正ヲ檢査シ且其代議者ノ中任撰ノ疑ハシキ者有ル時ハ其任撰ノ可否ヲ獨決ス

第十一條　代議者ハ議院ノ集會中ニ旅費トシテ千七百九十一年同議院ノ定メ得タル償金ヲ受ク可シ

第十二條　代議者ノ役ニ任セラレタル者ハ又其後ノ何度ヲ論セス更ニ之ヲ撰任スルヲ得可シ

第十三條　凡五年目ニ當然其代議者ノ全部ヲ改撰ス可シ

○佛蘭西一千八百三十年

第三十條　下院ハ追テ布告ス可キ法律ニ從テ設立ス可キ處ノ選立議會ヨリ選任シタル代議者ヲ以テ編制ス可キ者ナリ（シヤンブルデテプテ）

第三十一條　代議者ハ五年間限リ之ヲ選任ス可シ

第三十二條　凡代議者ハ滿三十歳以上ニシテ代議者ヲ勤ムルニ法律ノ定タル件々ニ適セサレハ之ヲ下院ニ入ル可ラス

第三十三條　然ルニ如シ州ニ於テ三十歳以上且法律ニ從テ代議者ナルヲ得可キニ定稅ノ高ヲ納ムル所ノ人數五十ニ至ラサル時ハ次ノ最上ノ稅高ヲ納ムル所ノ人ヲ以テ定數ヲ滿タシ之ヲ他ノ人ト同シク選任スルヲ得可シ

第三十四條　凡人ハ廿五歳以上且選立人ナルヲ得可キ法律ノ定タル件々ニ適セサレハ選立議會ノ議員トナルヲ得ス

第三十五條　選立議會ノ長ハ同議會ノ議員之ヲ任ス

第三十六條　各州代議者ノ全數ノ半以上ノ代議者ハ選任ヲ受クルヲ得可キタメ法律ニ定タル諸件ニ適當シタル人ノ內州地內ニ其公住所ヲ定タル處ノ人ノ中ヨリ之ヲ選任ス可シ

第三十七條　下院ノ長ハ下院已ノ各會席ノ初ニ之ヲ任ス

第三十八條　下院ノ會席ニハ衆庶ノ來聽ヲ許ス可シ然ルニ議員ノ中五人以上內密ノ評議ヲ爲ンヿヲ願フ時ハ內密ノ會議ヲナス可シ

第三十九條　下院ハ國王ヨリ已ニ送リタル法律ノ草案ヲ評議スル爲メ數局ニ分ル

第四十三條　下院ノ會席中幷ニ其集會ノ前後ハ六週間ニ議員ニ對シテ負債償濟マテノ禁獄ノ處置ヲ行フ可ラス

第二十一條　代議者ノ總數ハ「アルゼリヤ」地名幷ニ他ノ屬國ノ代議者ヲ入レテ七百五十八ト定ムルナリ

第二十三條　國內ノ各地ニヨリ撰任スヘキ所ノ代議者ノ數ハ其人民ノ數ニ基キ之ヲ定ムヘシ

第二十八條　凡有俸公役ハ代議者ノ職務ト兼勤スル能ハス且何レノ代議者モ其任スル所ノ期限中公法權ノ撰舉ニ因ル所ノ有俸職務ヲ任セラルヽ可ラス但前文ノ規則ヲ除キ格段ノ處分ヲ爲スヘキ場合ハ撰任ノ所業ニ付テノ法律之ヲ定ム可シ

第二十九條　前條ノ規則ハ憲法ヲ改正スル爲メ撰任ノ上集ム可キ議院ニ管ス可ラス

第三十條　代議者ノ撰任ハ各州ニ於テ之ヲ別々ニ爲シ且ツ右ノ爲メ投票ヲ用フヘシ各州ニ於テ代議者ノ任ヲ請ハントスル者ノ名簿ヲ作リ其名簿ニ記入スル所ノ人民中人民各其撰ソトスル者ノヽ姓名ヲ內密ノ札（スクレタンドリス）ニ記シ以テ撰任スルヿノ方法ナリ撰立人ハ區ノ都府ニ撰任ノ所業ヲ爲ス可シ然ルニ土地ノ都合ニヨリ區ヲ幾千部ニ分ツヲ得ヘシ右樣ニ分ツヘキ區ト幷ニ其分ツ方法ハ撰任所業ノ法律ニ於テ之ヲ定ム可シ

第三十一條　民選議院ハ三年間ノ爲メ任スヘキ者ニシテ三年ノ終リニ議員ノ全部ヲ改任ス可シ○民選議院ノ在勤スヘキ期限ノ終リ遲シモ四十五日前ニ一ノ法律ヲ設ケ以テ新選任ヲ爲スヘキ所ノ期限ヲ定ム可シ○萬一前文ニ記シタル時間既ニ過クルト雖ヒ未タ此法律ヲ設ケサレハ民選議院ノ在勤ノ時間終ラサル三十日目ニ至リ撰立人ト當然集會スヘシ○猶民選議院ノ在勤時間ノ終ルヘキ所ノ日限ノ翌日ニ至リ新ナル民選議院ヲ召會スルヿハ當然

ナリ

第三十二條　全体民選議院ハ平常集會スヘシト雖モ自ラ日限ヲ定メ其日限ニ至ル迄集會ス又止メントスル時ハ之ヲ爲スヲ得ヘシ其集會セサルノ間ニ委員ヲ設置スヘシ右委員ハ民選議院ノ過半ニヨリ内密ノ投票ヲ用ヒ任タル代議者二十五人并議長坐席ノ員ヲ以テ編制セル者ニシテ議院集會セサル時間ニ急用ノ場合ニ至タリ之ヲ直ニ召會スルヿノ權ヲ有ス可シ○共和政治統領モ民選議院ヲ召會スルノ權ヲ有スルナリ○民選議院ハ其集會ノ場所ヲ定メ已ノ保護ノ爲メ要スル處ノ警衛ノ兵數ヲ決シ且此兵ヲ用ユルヲ得ヘシ

第三十三條　代議者ハ幾度ヲ限ラス之ヲ更任スルヲ得ヘシ

第三十四條　凡民選議院ノ議員ハ其之ヲ撰任シタル所ノ州ノ名代人ニ非ラスシテ佛蘭西全國ノ名代人ナリ

第三十五條　凡代議者ハ其已ヲ任シタル所ノ撰立人ヨリ已ノ勤ニ付テ已ノ必ス行フヘキ命令ヲ受ク可ラス

第三十六條　代議者冒瀆スヘカラサル者ナリ且其民選議院中ニ陳述シタル存意ニ付テハ何時ニテモ之ヲ探索及原告裁判ス可ラス

第三十七條　代議者重罪ヲ犯シタルト雖ヒ現行犯罪ニ非レハ民選議院之ヲ訴フルヿヲ許シタル上ノミ之ヲ取押ヘ原告スルヲ得ヘシ現行犯罪ノ場合ニヨリ代議者ヲ取押ヘタル時ハ直ニ其事ニ付テ民選議院ノ決定ヲ伺フヘシ民選議院ハ之ヲ續テ訴フヘキヿヲ許シ或ハ議ス可シ但既ニ現行犯罪ヲ爲シタル人拘留シタル間ニ代議者ニ撰任スル時モ此規則ヲ用フ可シ

第三十八條　代議者各償金ヲ受ルヿナリ何レノ代議者モ之ヲ受ル

ヿヲ辭スルヲ得ス

第三十九條　民選議院ノ會席ニ來聽ヲ許ス可シ然トモ同院ノ規則書ニ定メタル代議者ノ幾人ヨリ内密會議ノ願ヲ出スニ於テハ内密會議ヲ爲ヲ得ヘシ代議者各獲議ノ權ヲ有スル者トス猶其權ヲ施行スル法式ハ同院ノ規則書ニ定メタル式ナリ

第四十條　議院ノ過半出席セサレハ其決議シタル法律ハ効ナカルヘシ

第四十一條　急速ノ場合ノ外ハ何レノ法律議案ヲ決議スルヲ得ヘキニ五日以上ノ時間ヲ隔テタル三度ノ商議ヲ爲サヽルヲ得ス

第四十二條　若シ急速ノ場合ノ方法ヲ用ユヘキヿヲ得ヘキ勸告ヲ出シタル時ハ其表紙ニ必ス其所以ヲ述タル書面ヲ出サヽルヲ得ス○其節民選議院ハ其勸告書ヲ査究スヘキヿヲ思フ時ハ之ヲ己ノ局ヘ送リ且其急速ノ勸告書ニ付テノ届書己ソニ出スヘキ日限ヲ定ムヘシ尚此届書ヲ受取リシ日ヨリ如シ民選議院ハ之ヲ可トシテ急速ナル場合ノ法式ヲ用ユ可キヿヲ認ルニ於テハ此旨ヲ告ケ且其急速ナル議案ヲ商議スヘキ日限ヲ定ム可シ反テ此届書ヲ主トシテ急速ノ場合ノ法式ヲ用フルニ及ハスト定ムルニ於テハ其議案ニ付テ平常ノ商議ノ法式ヲ用フ可キナリ

○佛蘭西　一千八百五十一年十二月二十日及二十一日ノ投票ニ因リ佛蘭西人民ノ路易拿破崙保那巴ニ授ケシ威權ヲ以テ制定シタル憲法

第三十四條　議院ノ員ノ選舉ハ人口ノ多寡ヲ以テ基礎トス

第三十五條　選舉ヲ爲ス者三万五千人毎ニ代理者一員ヲ議院ニ出ス可シ「千八百十七年五月廿七日換フ」

第三十六條　國民ノ代理者ハ數名ヲ合シ選舉ヲ爲スヿナク全國人民ノ投票ヲ以テ一名毎ニ之ヲ選舉ス可シ

第三十七條　「千八百五十二年十二月廿五日廢ス」議院ノ員ハ官俸ヲ受クルヿナシ

第三十八條　議院ノ員ハ六年間其職ニ任ス

第三十九條　議院ノ員ハ法律ノ議案及ヒ租稅ノ商議ヲ爲シ可否スル者ノ多寡ニ從テ之ヲ決定ス

第四十條　法律ノ議案ヲ取調フル任ヲ受ケタル委員ノ採用セシ法律議案ノ更改書ハ之ヲ討論セシテ議長ヨリ參議官ニ送ル可シ若シ參議官其改正ヲ採用セサル時ハ之ヲ議院ノ商議ニ附スルヿヲ得ス

第四十一條　議院ノ通常ノ集會ハ之ヲ三月間トシ其會議ハ衆庶ノ來聽ヲ許サスト雖ヒ若シ議院ノ員中五名ヨリ求ムル時ハ議院ノ總員ヲ以テ隱密ノ議會ト爲ス可シ

第四十二條　新聞紙ニ因リ又ハ其他衆庶ニ告知ス可キ方法ニ因リ議院會議ノ諸件ノ摘撮書ヲ公ニ爲スニハ各會議ノ終リニ於テ議長ノ管照ヲ以テ記シタル所ノ論議ノ調書ヲ用フ可シ

第四十三條　議長及ヒ副長ハ共和政治ノ大統領議員中ヨリ一年間之ヲ選舉ス○議長ノ官俸ハ命令書ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條　宰相ハ議員トナル可カラス

○佛蘭西　一千八百五十二年

第四十六條　民選議院ハ召集ノ布告ニ定メタル日限ニ集會ス渾テ本院ノ會議ニ於テハ格別ノ布告（プロクレー）ニ由リ任シタル參議院ノ議官數

人政府ノ名代ヲ勤ム

第四十七條　始ノ會議ヲ開ク時ニ民選議院ノ議長出席シ議員ノ中最年少ノ者四人ノ補佐ヲ得テ闔取ノ法ヲ用ヒ衆員ヲ七局ニ分ツ可シ但此四人ハ集會ノ時間中書記役ノ職務ヲ勤ム○此ノ如ク編成シタル七局ハ集會中ノ毎月闔取ノ方法ヲ用ヒ其員ヲ改撰ス○各局ハ其局長一名及書記役數名ヲ任ス可シ

第四十八條　各局ハ直ニ本院ノ議長ヨリ已レニ頒タレタル代議者選任ノ調書ノ檢査ニ取掛ル可シ又其員ノ中一名或ハ數名ヲ任シ之ヲシテ總會議ニ於テ其檢査ノ報告書ヲ聞セシム可シ

第四十九條　本院ハ其局ノ報告書ニ基キ選任ノ當否ヲ決議ス選任ノ當ト定ラレタル者ハ直ニ建國法第十四條及千八百五十二年十二月二十五日附元老院決定書ノ第十六條ヲ定メタル誓ヲ爲ス可シ然ル後議長本人ハ代議者ナリト告ク可シ但選任ノ當ナリト定ラレタル者ノ中出席セサル者アレハ次ノ會議ニ於テ誓詞ノ式ヲ行フ可シ○凡其撰任ヲ當ト定タル日ヨリ十五日内ニ誓詞ヲナサヽル代議者ハ免職シタル者ト看做ス可シ出席セサル者ハ書面ヲ以テ誓詞ヲ爲スヲ得可シト雖モ此場合ニ於テハ其書面ヲ前文ノ期限内ニ議長ニ出ス可シ

第五十條　代議者ノ選任ノ檢査終リシ後議長ハ民選議院ヲ編成シタル旨ヲ皇帝ニ告ク可シ但選任ヲ延期シ或ハ更ニ決議ス可キ所ノ代議者アリト雖モ其決議ヲ俟ツニ及ハス

第五十一條　皇帝ヨリ民選議院ニ附スル所ノ法律ノ議案ハ特任シタル參議院ノ議官之ヲ持シテ本院ニ之ヲ讀聞カシム或ハ皇帝ノ命令ニ從ヒ國政卿ヨリ民選議院ニ之ヲ達シ總會議ニ於テ之ヲ讀

聞カシムルナリ○此議案ヲ印刷シテ議員ニ頒チ院内ノ諸局ノ議事ノ日順ニ書載ス諸局ハ之ヲ評議シ且内密ノ投票ノ過半ヲ以テ七名ノ委員ヲ選ヒ之ヲシテ總會議ニ於テ其評議ノ報告書ヲ讀聞カシム○法律ノ議案ノ性質ニ由リ民選議院ハ其院内ノ局ノ委員七名ノ代ニ十四名ヲ以テ編成ス可キヿヲ定ムルヲ得可シ

第五十二條　凡法律ノ議案ニ付テ議員一名或ハ數名ヨリ發シタル修正意見書（アンマンドマン）ハ之ヲ議長ニ呈シ議長之ヲ委員ニ達ス可シ但法律ノ議案ノ報告書ヲ總會議ニ於テ讀聞カシタル後出シタル何レノ修正意見書ト雖ヒ之ヲ受ク可カラス

第五十三條　修正意見ヲ發シタル者ハ委員ノ會議ニテ其論ヲ聞カシムルノ權アリ

第五十四條　若委員ノ修正ノ意見ヲ可ト定タル時ハ其意見書ヲ議長ニ呈シ之ヲ參議院ニ達ス可シ尚參議院ヨリ之ニ付テ存意ヲ通知スル迄ハ委員其報知ヲ延期ス可シ又委員ハ其意見書ヲ可ト爲シタル原由ヲ參議院ニ聞カシムル爲メ己レノ員中ノ三名ヲ名代トシテ出張セシムルヿヲ得可シ

第五十五條　若シ參議院ヨリ民選議院ノ議長ヲ中人ニシテ委員ニ知ラシメタル存意ニ由リテ其修正ノ意見書ヲ可ト爲スカ或ハ參議院ヨリ其意見書ノ文ヲ改メ委員ニ於テ其改メタル文ヲ可トシタル時ハ總會議ニ於テ評議ス可キ法律ノ議案ヲ其新ナル文ノ如ク修正ス可シ○若シ參議院ノ存意ニ由リテ修正ノ意見ヲ否トナスカ或ハ參議院ニ於テ其文ヲ改メタル上委員ニ於テ其改正ノ文ヲ可トセザル時修正意見書ハ効ナキ者トス

第五十六條　委員ヨリ法律ノ議案ヲ評議シタル後ニ爲シタル所ノ

報告書ハ總會議ニ於テ之ヲ讀聞カシム可シ但此報告書ヲ總會議ノ時ヨリ二十四時前之ヲ印刷シ議員ニ頒ツ可シ

第五十七條　議事ノ日順ニ定メタル日限ニ至リ議事ヲ開キ始メ法律議案ノ大意ハ後ニ各條目ニ付テ議ス可シ畢竟條目ヲ議ス可キヤ否ノ事ニ付テ本院ノ存意ヲ問フニ及ハスシテ議長各條目ニ付テ順次ニ決議ヲ爲サシムルナリ○但其決議ハ起立ノ方法ヲ用ヒ之ヲ爲ス可シ若シ本院ノ議長事務局員ヨリ可否ノ疑アルト申立ツル時ハ投票ノ式ヲ用フ可シ

第五十八條　議案ノ各條目ニ付テ決議ヲ爲シタル後議案ノ大意ノ決議ヲナス可シ○其決議ハ公ノ投票ノ過半ニ由リテ之ヲ爲ス可シ書記役投票ヲ改メ議長決議ヲ告ク○代議者ノ過半出席セサレハ本院ノ決議効アル可カラス○若シ投票ヲ爲ス者ノ數代議者ノ過半ニ當ラザル時ハ議長其決議効ナカル可キヿヲ告ケ更ニ之ヲ爲ス可キヿヲ命ス○邑又州ノ便益ニ限ル所ノ法律ノ議案ハ若シ之ニ付テ異論ヲ述フル議員アラサレハ起立ノ方法ヲ用ヒ之ヲ決議ス可シ然ルニ議員十名以上投票ノ式ヲ用フ可キヿヲ請求スル時ハ格別トス

第五十九條　凡民選議院ノ爲シタル決議ハ可否ヲ問ハス其決議ノ原由ヲ記ス可カラサル者ニシテ左ノ二ノ文式ノ中ノ一ヲ用ヒテ之ヲ記ス可シ○(民選議院許可セリ)○(民選議院許可セサリシ)

第六十條　民選議院ヨリ許可セシ所ノ法律議按ノ正本ハ議長及書記役之ニ調印ヲ爲シタル上本院ノ舊記藏ニ納ム可シ○尚議長及書記役共ニ調印シタル所ノ副本一通ヲ皇帝ニ捧ク可シ

第六十一條　皇帝ヨリ民選議院ニ下ス所ノ告達及告喻ハ特任ヲ受

ケタル諸卿或ハ參議院ノ議官之ヲ持參シ會議ニ於テ讀聞カシム可シ○此告達及告喩ニ付テハ何レノ評議ト何レノ決議モ爲ス能ハス但其告達及告喩ニ於テ本院ノ決議ス可キ所ノ建言アル時ハ格別トス

第六十二條　本院ノ會ヲ延期シ其會議ノ時間ヲ延ハシ或ハ本院ヲ解散ス可キ爲ノ皇帝ノ告喩ハ公ノ會議ニテ之ヲ讀ム可キヿトス議員ハ何レノ所行モ停止シ直ニ解散ス可シ

第六十三條　民選議院ノ議長ハ自ラ會議ヲ開キ又會議ヲ閉ルヿヲ告ク各會議ノ終リニ衆員ノ存意ヲ問ヒシ後次キノ會議ヲ開ク可キ刻限及議事ノ日順ヲ報ス但議事ノ日順ノ表ヲ議事堂ニ貼附ス可シ○此議事ノ日順ハ直ニ之ヲ國政卿ニ達ス可シ又一切其他ノ緊要ナル報知モ議長適應ノ時ニ國政卿ニ傳達セシム可キヿヲ注意セサルヲ得ス

第六十四條　何レノ議員ト雖モ發言ノ允許ヲ請ヒ議長ヨリ之ヲ受ケタル上ニ非レハ發言ヲ爲ス可カラス又議員ハ其場ニ在テノミ發言ヲ爲スヲ得可シ

第六十五條　然モ政府ノ名義ヲ以テ法律ノ議案ヲ主張ス可キヿヲ任セラレタル參議院ノ議官ハ發言ノ允許ヲ請ヒシ議員ノ名簿ニ己ノ姓名ヲ記入スルニ及ハスシテ發言ヲ願フ時ニ之ヲ許ス可シ

第六十六條　凡發言者ノ言ヲ中絶セシニ出リ犯則ノ戒ヲ受ケタル議員ハ發言ノ允許ヲ受ク可カラス○若シ發言者議事ノ本按ニ離レ他ノ事件ノ論ニ干渉スル時ハ議長之ヲナシテ本按ノ論ニ返テシム可シ但本人其議長ノ命ニ付テ發言ヲ爲スヿノ允許ヲ願フニ於テハ議長之ヲ許スヲ得可シ○凡同一ノ發言中既ニ二度議事ノ本